

 

P評価13-改1-W版

エイム株式会社

2018年3月

目次

	はじめに 3		
注意			
プラン基本情報の提供			
動作環境			
	特徴 5		
入力の流れ			
適用範囲			
出力帳票			
	セットアップ ′	7	
木耐博士 N のインストール			
はじめての起動			
ライセンスのご購入と登録			
ライセンス期間について			 1
木耐博士 N のアンインストール			 1
	基本操作の習得 1	2	
画面インターフェース			 1
基本入力画面			 1
ツールバー			 1
作成手順			 1
ファイル管理			 1
画面制御			 1
基本操作			 2
データを入力する			 2
データを変更する			 2
データを削除する			 2
入力したデータを取り消す			 2
取り消したデータを復活する			 2
	入力練習 22		
	マスターメンテナンス 4	5	
	一般診断計算方法 5	0	
必要耐力 Qr			 5
保有耐力 edQu			 5
上部構造評点			 6
	もっと便利に使うために	67	
基礎の入力			 6
補強プランの自動生成			 6
耐力壁のカラー表示			 7
			-

はじめに

- このたびは本プログラムをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
 本マニュアルは、本プログラムの操作、運用方法について説明します。
- ・本プログラムは、「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」(一般財団法人 日本建築防災協会発行)の一
 般診断法に基づいた耐震診断が行えるプログラムです。
- ・本プログラムの補強プラン自動生成に関するロジックは、日本木造住宅耐震補強事業者協同組合および特定非営利
 活動法人住まいの構造改革推進協会の監修により作成されております。
- ・本プログラムの開発元、販売元はエイム株式会社です。

注意

- (1)本書のコピーや転載はお断りいたします。特にコンピュータ関係の会社に対しての資料の流出を固く禁止します。
- (2) お使いのハードウェア機種により、必ずしも本書の説明通りではないこともあります。個別にお確かめ下さい。
- (3)本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。本書とソフトウェアの動作に差異があった場合には、ソフトウェアの動作が優先します。
- (4)耐震診断を行う際には、「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」(一般財団法人 日本建築防災協会発行)の一般診断法の考え方を良く理解いただいた上で本ソフトをご利用下さい。運用した結果の影響につきましては上記(2)(3)の項に関わらず責任を負いかねますので予めご了承下さい。
- (5) ライセンスの利用期限が過ぎますと、ライセンスを必要とする操作ができなくなります。利用期限につきましては 予めご確認下さい。
- (6)記載されている商品名は一般に各社の商標です。

プラン基本情報の提供

【一般財団法人 日本建築防災協会の木造住宅耐震診断プログラム評価対象外】

本プログラムは、以下の目的においてエイム株式会社が運営管理するデータサーバーに対しインターネットを通じ てアクセスしますので、予めご承知おき下さい。

- (1) 補強プラン生成時のライセンス確認
- (2) バージョンアップ及び各種お知らせの通知
- (3)統計情報集計に向けた以下の木造住宅耐震診断結果基本データの収集

<診断結果基本データ>

物件コード、所在地(都道府県)、診断会社、竣工年月、住宅金融公庫、構法/構造、

モジュールピッチ、外壁仕様、建物仕様、地域係数Z、地盤、地形、基礎、積雪、床仕様、軸組、

柱頭柱脚接合部、壁厚さ、柱径、短辺割り増し、偏心率、基礎仕様低減、床面積、強さ Qu、配置 eKfl、劣化度 dK、 保有耐力 edQu、上部構造評点、十六方位

動作環境

CPU:PentiumⅢ1.0GHz 以上

対応 OS: Windows 10、Windows 8/8.1、Windows 7

メモリ:使用する 0S が推奨する環境以上

ハードディスク: 1 GB 以上の空き容量が必要

解像度:1024×768 以上(1,677 万色以上推奨)

※補強プラン自動生成機能を使用するにはインターネット接続が必要です



木耐博士Nには以下の特徴があります。

スピーディな耐震診断

建物の調査データを元に建物概要と間取りを入力することにより「2012 年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」 (一般財団法人 日本建築防災協会発行)一般診断法に準拠した耐震診断が作成できます。

耐震補強プラン自動生成

【一般財団法人 日本建築防災協会の木造住宅耐震診断プログラム評価対象外】

使用する補強部材を設定すると、一般的な補強ロジックに合わせて目標の点数まで適切な補強プランを自動で生成し ます。屋根の軽量化や接合部の改善等、個別条件を加えることも可能です。

※本機能は日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の対象外となります。ご留意下さい。

お客様にもわかりやすい出力帳票

耐震診断結果はお客様にもわかりやすい出力帳票で構成され、調査時の写真やコメントを記載することが可能です。

入力の流れ



適用範囲

「2012 年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」(一般財団法人 日本建築防災協会発行)一般診断法と同様です。

- 3 階建てまでの在来軸組構法、伝統的構法、枠組壁工法の木造住宅
- 立面的な混構造(1階部分が鉄骨造または鉄筋コンクリート造)の建物の場合は、その木造部分

※下記の建物は適用範囲外です。

- 丸太組構法
- 旧 38 条認定および型式適合認定によるプレハブエ法住宅
- 平面的な混構造
- スキップフロア]
- 学校校舎、体育館、幼稚園舎などの大規模木造建築物を含む
- ※ 耐震診断法は、比較的矩形な総 2・3 階建てを想定して作成されています。そのため、2 階が二つに分かれている建物や、平面形状がコの字型など、著しく不整形な建物について、本プログラムで診断することは不適切です(2 階が 二つ以上に分かれている建物については、プログラムでは診断できない仕様となっております)。
- ※ 本ソフトでの耐震診断は、階高 3.4m 程度までの建物について適用して下さい。
- ※ 上記の適用範囲につきましては、出力帳票の表紙に表示されます。

出力帳票

耐震診断書/補強提案書に印刷される内容は、下記の通りです。

- 総合評価
 建物概要、上部構造の評価、注意事項:地盤・基礎、あなたの家の強さ(保有耐力・必要耐力)、
 総合評価、高評価となる場合の評点(積雪深入力時)
- 地盤・基礎

- 図面(平面図、基礎伏図)
- 必要耐力 Qr の算出、耐力要素の配置による低減係数用必要耐力(4分割法利用時)※
- 壁・柱の耐力 Qu(各階別・X/Y 別、梁間別)※
- 偏心率の計算(配置による低減係数を偏心率で計算する時)※
 積雪深入力時は※印部分の内容について、高評点時の表を印刷することができます。
- 劣化度による低減係数 dK

3 セットアップ

木耐博士Nをご利用いただくには、以下の手順でセットアップを行って下さい。

木耐博士Nのインストール

- SetUpMokutai.exe をダブルクリックします。
- 2 [次へ]をクリックします。



③ 使用許諾条項を確認し「使用許諾契約の 全条項に同意します」にチェックを入れて [次へ]をクリックします。





はじめての起動

① Windows の [スタート] – [すべてのプログラム]

- [木耐博士N]を選択し起動します。



※この状態ではライセンス未購入の状態です。一般診断が無料で使用できますが以下の制限事項があります。

	条件	説明
ライセ	ンス未購入	一般診断が使用可能です。(ただし保存、印刷機能は使えません)
ニノムシュプ昧し这	インターネット接続不可	一般診断が使用可能です。
ノイセンヘニ購八店	インターネット接続可	一般診断と補強プラン作成機能が使用可能です。

ライセンスのご購入と登録





5 起動画面に有効期限とライセンスキーが表示され全ての機能が使えるようになります。



ライセンス期間について

ライセンス有効期間の開始日は「ライセンスキー送付日」となります。また更新の場合は、期間失効日から期間が延長 されます。ライセンスキーの登録日とは異なりますので、ご注意下さい。

●初めてライセンスを購入した場合



木耐博士Nのアンインストール

Windows の [スタート] - [コントロールパネル]
 を開き [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。(Windwos7 の場合)
 ※Windows10 の場合、スタートボタンを右クリックし、「プログラムと機能」をクリック





HANNAL THE THE THE THE	2003/07>07>03h-07h108					
インストールされた世界プロ	70グラムをアンインストールするには、一般からプログラ	ムを避免して (アンインストール)、 (数	e), \$75\$ [68	しをクリックしょ	a.	
9 Windows CRIEGROULER:	第四 - アンインストール 文章					it • 1
3+1-2-00-670094	4.m Q-	8/77	d's The	HAT	(In No. 5)	
モインストール	Binnik Entry 16.0.2 (v06 tr)	Verla	2012/11/08	20.1 HD	16.0.2	
	Bitterila Mantenarca Service	Mozila	2012/15/08	217 18	16.0.2	
	100000 A0-022 (00054430)	Managed Companyion	3013-03/34	77.0 80	4 20 98 20 0	
	ETHONY AN OF (RECTON)	Victored Contraction	2012/02/24	1.22 649	4 30 9635.0	
	Electron do set hour	Manual Constantion	2012/08/24	1.07.000	4 30 1180 0	
	TINCYMI, 6.0 G02 Brown (VD1221601)	Microsoft Caracterition	2012/08/22	1.52 HD	4.30.2124.0	
	TRANSMI, G.O. WITS PARLOY (MRC 7788001)	Microsoft caracterion	2015/05/09	1.54 PB	6.30.2117.0	
	#TheatTP		3012/03/22	and the		
	CKCP+77-M-F2	ORIC BUSINESS CONSULTANTS	3012/08/22		1.04.0000.00000	
	PayMemories Home	Sony Cerceration	2012/12/10		7.0.80.11271	
	OutskTime	Apple Inc.	2012/11/09	73.1 HB	7,73,30,64	
	Mitigataly with Definition Audie Driver	Realbox Servicesburger Core.	2011/12/13		6.0.1.8883	
	di Satari	Apply Inc.	2012/05/11	104 PB	5.34.57.2	
	 Tinortavori 	stilling Nativork Str.	8012/08/15	18.0 198	5.00.0000	
	D/Visio 2000 (JP)	View Corporation	2012/03/22	051 430	6.0.8.3	
	Windows (Jue Essentials 2011	Microsoft Corporation	2012/04/13		15.4.1555.0108	
	The Windows F5-17UTy-9-5 - Del Snc. PEADRY Syste	Doll Inc.	2011/12/13		08/11/2009 1.0.1.8	
	電 Windows ドライバノリックージ - Takecom Co., Ltd (ITF	Takacom Co., Ltd	2012/13/14		01/13/2010 2.0.2.10	
	Winshot.	Woodybel's software.	2012/02/29			
	メンテル(内) HD グラフィックス・ドライバー	Intel Corporation	2011/12/13	74.2 HB	0.15.10.2410	
	ビインデル3コントロール・センター	tetal Corporation	2011/12/13	1.46 P/8	1.2.3.0007	
	104-BUE COLE / 10KORV BURCH	Intel Corporation	2011/12/13	20.4 PB	7.0.0.1144	
	ロインデルゆ ラビッド・ストレーシ・テクノロシー	tetal Corporation	2011/12/18	18.4 118	10.1.0.1008	
	10-0-11-21-C2-0-Corp. 0-0-17-2-1	Trend Plicno	2012/11/16		10.6	
	11.1 ジモート使用用の Windows Uve Meth ActiveX コントロ	Microsoft Corporation	2011/12/13	5.57 MB	15.4.5722.2	
	遺理設施者・単純が当体容素治合体体(新インストーラーボ)		2013/05/09		1.00.0000	
	(1)自然事行) ネットワーク板	OBIC BUSINESS CONSULTANTS	2012/03/23	156 HB	1.53.0002.00000	
	三世間道御鮮新らステム 積盛新鮮地市		2012/08/12			
	▲ 社会被運動完全通过一ル	内留在 12日前門 後間・火山・	2012/05/10	875 HB	1.7.1	
	門用のメール5 /8.2	株式自社ジャストシステム	2012/07/04		5.3.3.0	
	REPAIR VES 20	NEXWAY	2012/03/05		9.2	
	1111月1日 (1111) 1111月日 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 1111月 11111 11111 11111 11111 11111 111111	SCSK	2013/64/23		0	

③ [削除] にチェックを入れて [次へ] をクリックし、 「選択したアプリケーション及び全てのコンポー ネントを完全に削除しますか?」で [OK] ボタン をクリックします。表示されるメッセージに従って 木耐博士Nの削除を行って下さい。



ダンテナンスの完了で[完了] ボタンをクリック します。



木耐博士Nを利用するための基本操作を習得します。

画面インターフェース

1 基本入力画面

木耐博士Nの画面インターフェースについて説明します。

操作画面は大きく「ツールバー」「タブメニュー」「属性ダイアログ」「情報表示ボックス」に分けられます。 ①



①タイトルバー

アプリケーション名と現在開いているファイル名、現状/補強案が表示されます。

②メニューバー

コマンド(機能)がプルダウンで表示されます。

③ツールバー

よく使うコマンド(機能)がアイコン化されています。アイコンをクリックすると機能を実行します。

④タブメニュー

入力階の切り替えや現状プラン、補強案を切り替えます。

⑤属性ダイアログ

柱や壁などの属性を設定、変更するエリアです。

⑥情報表示ボックス

入力階に関する偏心率や必要耐力等をリアルタイムに表示します。

⑦ステータスバー

コマンド(機能)のガイドメッセージが表示されます。



ファイル	: ファイルの作成や	・保存等に関する機能が収め	られています。
新規	新規ファイル	[ファイル]ー[新規作成]	新規物件ファイルを作成します。
□ 開<	開く	[ファイル]ー[開く]	既存物件ファイルを開きます。
公 終了	物件保存終了		物件を保存して終了します。
₩ 保存	保存	[ファイル]ー[物件保存]	物件を保存します。
(1) 印刷	印刷	[ファイル]ー[印刷]	出力帳票の印刷を行います。
モード	: モードや操作	の取り消し等の機能が収め	られています。
S undo	元に戻す	[編集]-[元に戻す]	部材、汎用ツールでの入力、削除、変更を元に戻します。
P redo	やり直し	[編集]-[やり直し]	元に戻した操作をやり直します。
/ 入力	入力モード	[モード]-[入力]	部材、汎用ツールを入力します。

× 削除	削除モード	[モード]-[削除]	入力済みの部材、汎用ツールを削除します。
□ <u>入</u> 変更	変更モード	[モード]-[変更]	入力済みの部材、汎用ツール要素の属性を変更します。
画面 :	画面制御等の機	能が収められています。	
■ 拡大	範囲拡大	[表示]-[範囲拡大]	選択範囲を拡大します。
⊕ 拡大	1点拡大	[表示]-[拡大]	表示された図面を中心に拡大します。
○ 縮小	1点縮小	[表示]-[縮小]	表示された図面を中心に縮小します。
⊞ ⊼≠97° ▼	スナップモード	[表示]ー[グリッドタイプ]	スナップの有無、グリッド種類(線、点、非表示)を設定します。
1/2 💌 グリッド幅	グリッド幅		スナップさせるグリッド幅を指定します。
耐力	耐力壁表示	[設定]-[耐力壁表示]	耐力壁表示のモノクロ/カラーの切り替えを行います。
情報 :	通知機能やヘル	プが収められています。	
Ver. Up	VER.Up		VerUp やプログラム更新等を確認します。
	お知らせ	[ヘルプ]ー[お知らせ]	各種インフォメーションを確認します。
? 11.7°	ヘルプ		ヘルプを確認します。
部材 :	部材ツールが収	められています。	
◆ 部屋	部屋	[部材]-[部屋]	部屋を入力します。
肩口	開口	[部材]-[開口]	開口を入力します。
自動	自動生成	[部材]-[自動生成]	自動生成を行います。
2	壁	[部材]-[壁]	壁を入力します。
●	柱	[部材]-[柱]	柱を入力します。
國加加	耐力壁	[部材]-[耐力壁]	耐力壁を入力します。
区画	区画	[部材]-[区画]	バルコニー/小屋裏を入力します。

一 基礎	基礎	[部材]-[基礎]	基礎を入力します。
を開口	基礎開口	[部材]ー[基礎カット]	基礎の換気口を入力します。
汎用 :	汎用ツールが収	められています。	
	補助線	[汎用]-[補助線]	補助線を入力します。
 寸法	寸法線	[汎用]-[寸法線]	寸法線を入力します(出力モードのみ)。
A 文字	文字	[汎用]-[文字]	文字を入力します(出力モードのみ)。
 画像	画像	[汎用]-[画像]	任意の画像を入力します(出力モードのみ)。
設定:	劣化度低減係数	等設定メニューが収められ	ています。
建物概要	建物情報	[ファイル]ー[建物情報]	建物情報を設定します。
劣化 係数	劣化度低減係数	[設定]-[劣化度低減係数]	劣化度を入力します。
地盤 基礎	地盤基礎	[設定]-[地盤基礎]	地盤や基礎の注意事項等のコメントを編集します。
情報 表示	情報表示	[設定]-[情報表示]	情報表示(偏心率、必要耐力、保有耐力、評点)を行います。
診断・補	強 : 診断、補	強プラン等のツールが収め	られています。
力画	入力画面		入力画面にします。間取入力時に利用します。
出力 画面	出力画面		出力画面にします。耐震診断、画像/文字入力、印刷時に利用 します。
耐震	耐震		耐震診断を行います。
プラン コピー	プランコピー		現状→補強案、補強案→補強案へと間取情報を⊐ピーします。
補強	補強		補強プランを自動生成します。
接合 金物	接合金物		接合部金物の選別を自動で行います。
プラン 削除	プラン削除		作成しているプランの情報を全て削除します。
数量 出力	数量出力		補強部材の数量出力を自動で行います。



作成手順

現地調査~診断結果報告出力

現地調査を実施する 診断作成には正確な現地調査が必要です。建築図面のみでも診断書の出力は可能ですが実際の家屋の状況とは 異なる結果となる可能性がございますので、必ず現地調査を実施して下さい。 木耐博士Nを起動する 2 現地調査後の情報が準備できましたら、パソコンを起動し木耐博士Nのプログラムを起動します。 基本情報を入力する 3 依頼者名やご住所、物件概要等、基本的な情報を入力します。いくつかの項目は自動的に入力されますのでご 活用下さい。 間取りを入力する 4 図面を参考に部屋、開口部の入力を行います。 柱・壁・耐力壁の自動生成を行い修正する 5 柱・壁・耐力壁は自動生成機能を使用し、実際と異なる部分を変更・削除機能等で修正します。 耐震診断の計算を実行する 6 物件の入力が完了しましたら診断結果を求めます。出力のプレビューで内容を確認し間違いがないかどうか確 認します。 診断結果を印刷する 7 最後に診断結果をプリンタで出力します。

補強設計~補強提案書出力

п

8	補強案モードへ切り替える 補強案モードへ切り替え、診断結果の情報をコピーします。	
9	補強案を作成する 耐力壁の修正等を行い、補強案を作成します。	
10	補強案を印刷する 最後に補強案を印刷します。	

П



ファイル管理



≪操作方法≫

- 木耐博士Nが起動された後、物件選択ウインドウが表示されます。 ※新規の場合は[新規物件作成]ボタンをクリックします。
- ② 選択したい物件名の上にマウスカーソルを移動し、物件名をクリックします。
- ③物件名が選択された状態で[選択]ボタンをクリックします。

物件を保存する

≪操作方法≫

H 保存

① 保存アイコンをクリックするか、[ファイル]メニューから[物件保存]を選択して下さい。

別名で物件保存

≪操作方法≫

- ①[ファイル]メニューから[別名で物件保存]を選択します。
- ②物件管理画面が表示されるので新たな物件名を物件名欄に入力します。既存の物件名をクリックして修正することも 可能です。
- ③[OK]ボタンをクリックすると、物件選択ウインドウが表示され新たな物件が追加されます。
- ※保存フォルダを変更したい場合は、「参照」ボタンをクリックして任意の場所のフォルダを指定するか、「新しいフォルダ の作成]ボタンをクリックし、任意の名称を入力して[OK]ボタンをクリックすると物件管理画面のフォルダ欄が設定 されます。
- ※1つの物件ファイルには補強案を3案まで作成することができます。補強案を4つ以上作成する場合には、【別名で物 件保存]をご利用下さい。



≪操作方法≫

63

① [ファイル]メニューから[アプリケーションの終了]を選択します。。



画面制御

```
ホイールマウスによる画面拡大縮小、スクロール
```

≪操作方法≫

●画面拡大・縮小

ホイール部分を上方向に転がすと画面が縮小表示されます。ホイール部分を下方向に転がすと画面が拡大表示されます。

●スクロール



ホイール部分を押しながらカーソルを動かすと、カーソルに アイコンが表示されスクロール(表示範囲の移動) を行う事が出来ます。

注)これらの機能は、お客様の使用環境によりお使い頂けない場合がありますのでご了承下さい。



≪操作方法≫

- ① 範囲拡大アイコンをクリック、または[表示]メニューから[範囲拡大]を選択します。
- ② 拡大したい中心点でマウスをクリックし、ボタンを押したままドラッグし、外枠でボタンを離します。
 ※ポップアップメニュー(右クリック)でも選択できます。

Ð 拡大 1点拡大

≪操作方法≫

1 点拡大アイコンをクリックするか、または[表示]メニューから[拡大]を選択すると、選択時点で表示されている画面を中心に1段階画面が拡大されて表示されます。



≪操作方法≫

1 点縮小アイコンをクリックするか、または[表示]メニューから[縮小]を選択すると、選択時点で表示されている画面を中心に1段階画面が縮小されて表示されます。

※ ポップアップメニュー(右クリック)で、初期画面に戻すことができます。

≪操作方法≫

- またはールバーの矢印をクリックして少しず つ画面を移動することもできます。
 - ※ キーボードの方向キーでもスクロール 可能です。



1/2	~	
グリッド	幅	グリッド数

グリッド数は物件を新規作成した際に設定したモジュールサイズに対して表示されます。

選択した分割数(1/1、1/2、1/3、1/4、1/6、1/8、1/10)の場所にスナップすることができます。

※一旦作成したモジュール

サイズは変更できません。新規物件作成の際にはモジュール設定に十分注意して下さい。

補助

補助線

グリッドに乗らない寸法で平面図を入力したい場合に利用します。

≪操作方法≫

- アイコンをクリック。
- ② オフセット値を選択し、基準となる1点をクリック します。(「任意」を選択した場合は2点をクリック します)

● 水平
 ● 垂直
 ● 任意
 オフセット
 0
 mm





画面上のグリッドの表示パターン(線分、点、非表示)の選択と、スナップの ON・OFF を切り替えます。

オフセット

グリッドに乗らない寸法を、補助線を引かずに入力したい場合に利用します。

≪操作方法≫

- ① [Shift]キーを押しながら左クリックします。
- オフセット値を入力し、「OK」をクリックします。
- メモ オフセットで指定する点は基準となる点からの距離となります。例のような多角形を作成する場合には、基準となる点を固定したまま数値入力を繰り返して下さい。



マウスカーソルは基点のまま SHIFT+クリック→数値→OKを繰り返す。

<例>

基本操作

部屋等の部材を選択すると自動的に入力モード 入力 がONの状態になっています。変更、削除等を行った後は入力モー ドをONに戻して部材を入力しましょう。部材の主な入力方法は以下の通りです。

対角入力

入力したい矩形データの頂点を2点で指示します。

囲み入力

入力したい多角形データの領域を囲みます。 囲みを閉じるように入力するか、一つ手前のポイント をダブルクリックします。



17

入力点/入力点+方向

入力点・・・・・入力点を1点あるいは2点クリックします。 入力点+方向入力・・・入力点をクリックした後、配置方向をマウスで指定します。

2 データを変更する

入力済み部材の属性を変更します。 変更したい部材アイコンを選択、 変更モード^{変更}をONにして、属性変更したい入 力済部材をクリックします。

3 データを削除する

入力済み部材を削除します。削除したい部材を選択、削除モード^{削除}をONにして、削除したいデータをクリックするか、ドラッグしながら領域を囲むようにドロップすると対象範囲の部材が削除されます。

4 入力したデータを取り消す

入力や削除/変更等を行った後に、その作業を取り消したい場合にUNDO(元に戻す) undo を利用します。 ※3 つ前の操作まで戻ることができます。UNDOはポップアップメニュー(右クリック)から選択することもできます。

5 取り消したデータを復活する

UNDO自体を取り消す場合にREDO(やり直し) redo 利用します。UNDO同様3回まで利用可能です。 ※3つ前の操作まで戻ることができます。REDOはポップアップメニュー(右クリック)から選択することもできます。

പ

5 入力練習

実際の物件を入力してみましょう。





木耐博士Nを起動します。



2 新規物件作成

[新規物件作成]ボタンをクリックします。

的件名	物件コード	構法/構造	更新日	作成日
 ○ 枠組壁工法サンブル 様野 ○ 伝統的構法サンブル 様野 ○ 在来軸組構法サンブル 様野 		枠組 伝統 在来	2013/03/19 21:15:42 2013/03/19 21:15:06 2013/03/19 21:14:30	2012/11/05 10:18:24 2012/11/05 15:20:04 2012/11/05 10:18:24

便利機能のご紹介①「エクスプローラー表示」機能

物件名の上で右クリックを押すと「エクスプローラーを表示]ボタンをクリックすると、木耐博士Nの物件データを保存 しているフォルダが表示されます。

物件名	物件コート	構法/構造	更新日	作成日
▲ 枠組壁工法サンブル 様邸		枠組	2013/03/19 21:15:42	2012/11/05 10:18:24
▲ 伝統的構法サンプル 様邸		伝統	2013/03/19 21:15:06	2012/11/05 15:20:04
▲ 在来軸組構法サンプル 様邸		在来	2013/03/19 21:14:30	2012/11/05 10:18:24

3 建物情報入力

モジュール、外壁仕様、竣工年月、床仕様、柱頭柱脚接合部等を入力します。

各項目のボタンをクリックすると、入力に関するヘルプが参照できます。

		構法/構造	建物重重の設定
施主名		④ 在来軸組構法(方法1)	◎ 軽い
建物名		🕐 枠組壁工法(方法1)	🧿 重い
物件コード調査日	年、月、日	🕘 伝統的構法(方法2)	◎ 非常に重い
郵便番号 参照 都道府	5県	湿構造割増(1階構造)	地域条件の設定
市区町村		◎ 木造	積雪 0
番地等		○ 鉄骨造または 鉄筋コンクリート造	地域係数Z 1
诊断会社		形状割増	(通用 条件 確認)
診断者	•	(建物短辺の長さ)	
備考		1階 4m以上6m未満 👻	一法の適用範囲
竣工年月 平成 ▼ 8 年 6	▼月 16方位 ▼	2階 4m未満 🗸	
建物階数 2 → 階建 住宅金融公	☆ ▲ 無または不明 一 有		
] 胴緑 外壁仕様 仕上けなし 軸組	•]	● Ⅲ火打ちょし想定床倍	率05未満)
] 胴縁 外壁仕様 仕上げなし 軸組 ○ 無 ④ 有 仕様 [[診断専用] 土塗厚40mm 	▼ n以上~50mm未満 ▼	 ■ L (1) 5+ 元(KGE) ■ エ (1) 5なし(想定床倍 注題住脚接合部 ■ I 平12建告1460号に近 ■ I 羽子板ボルト、山形ブ ■ I,Vほそ差し、釘打ち、 	*18年035001110767 率05未満) 着合する仕様 パレートVP等 かすがい等
 - 胴縁 外壁仕様 仕上げなし 軸組 ● 無 ● 有 仕様 [診断専用]土塗厚40mm 	▼ n以上~50mm未満 ▼ 地形	 ■ 大打ちなし(想定床倍 ■ 火打ちなし(想定床倍 住頭柱脚接合部 I 平12建告1460号に流 ■ I 平12建告1460号に流 ■ I 羽子板ボルト、山形丁 ● ■ ,IVほぞ差し、釘打ち、 ※枠組墾工法は、柱頭柱脚 	*18年0355年7月 第205年満)
□ 胴縁 外壁仕様 仕上げなし 軸組 ○ 無 ④ 有 仕様 [診断専用]土塗厚40mm 地盤 ○ よい・普通	▼ n以上~50mm未満 ▼ 地形 ● 平坦・普通	 ■ エノ打ちなし(想定床倍 ● エノ、打ちなし(想定床倍 ● エキ12建告1460号に近 ● エア12建告1460号に近 ● エア12建告し、釘打ち、 ※ 枠組 壁工法は、柱頭柱脚 ● 歴形式 	*18年0355年7月 第205年満)
] 胴縁 外壁仕様 仕上げなし 軸組 ○無 ④ 有 仕様 [診断専用]土塗厚40mm 地盤 ⇒ よい・普通 ● 東い 	 ▼ ■ 平坦・普通 がけ地・急斜面 	 ■ X Y15キ 元(M(S)定) ■ X Y15なし(別定床倍 住頭柱脚接合部 ■ I 平12建告1460号(ご) ■ I 羽子板ボルト、山形丁 ■ I N(ほぞ差し、釘打ち、 ※枠組墾工法は、柱頭柱即 基礎形式 (鉄筋コンクリート(健全) 	(15年)の5年) 第05年満) 自合する仕様 パレートVP等 かすがい等 町の低減は不要(1.0)で
 ・ 開緑 外壁仕様 仕上げなし ・ 軸組 ・ 無 ・ 有 仕様 〔診断専用〕土塗厚40mm ・ 並 ・ 並 ・ 並	 ▼ ■ 平坦・普通 がけ地・急斜面 ○ コンクリート播業 	 ■ X 打ちなし(想定床倍 ■ X 打ちなし(想定床倍 ■ 王 12建告1460号(注) ■ I 羽子板ボルト、山形丁 ■ エ Nほぞ差し、釘打ち、 ※枠組 望 工法は、柱頭柱即 基礎形式 ● 鉄筋コンクリート(健全) ● 鉄筋コンクリート(健全) 	* 信車 0.5 以上 1.5 米 清 車の5 未満) 前 かすがい等 型の低減は不要(1.0)で れが生じている)
 ・開緑 外壁仕様 仕上げなし ・ ・軸組 ・ ・ ・	 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 ■ X 打ちなし(想定床倍 ■ X 打ちなし(想定床倍 ■ 王 12建告1460号に) ■ 第子板ボルト、山形丁 ■ エ 12建告1460号に) ■ 第第コンクリート(健全) ■ 第第コンクリート(健全) ■ 第第コンクリート(健全) 	(10年)10年)10年)10年)10年)10年)10年)10年)10年)10年)
 ・開緑 外壁仕様 仕上げなし ・ ・ ・	 → → ・ ・<td> ■ 火打ちなし(想定床倍 ■ 火打ちなし(想定床倍 ■ 正火打ちなし(想定床倍 ■ 正,12建告1460号(点) ■ 耳羽子板ボルト、山形丁 ■ エ,12建告1460号(点) ■ エ,124(14) ■ エ,124(14)<td>(13年30.5年7月)</td></td>	 ■ 火打ちなし(想定床倍 ■ 火打ちなし(想定床倍 ■ 正火打ちなし(想定床倍 ■ 正,12建告1460号(点) ■ 耳羽子板ボルト、山形丁 ■ エ,12建告1460号(点) ■ エ,124(14) ■ エ,124(14)<td>(13年30.5年7月)</td>	(13年30.5年7月)
 ・ 開緑 外壁仕様 仕上げなし ・ ・ ・	 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 ■ X 打ちなし(想定床倍 ■ X 打ちなし(想定床倍 ■ 正次打ちなし(想定床倍 ■ エキュシュント(100) ■ エキュシュント(100) ■ エンタント(100) ● 無約コンクリート(健全) ● 無約コンクリート(200) ● 無約コンクリート(200) ● 二石(2日め・店場) ● 三石(2日め・店場) ● 三石(2日め・店場) 	(13年305年7月) (中国) (13年305年満) (13年305年満) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315年7月) (13年315757) (13年315757) (13年315757) (13年315757) (13年315757) (1355757) (1355757) (1355757) (1355757) (1355757) (13557577) (13557577) (135575777) (135575777777777777777777777777777777777
 ・	 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 ■ X 打ちなし(想定床倍 ■ X 打ちなし(想定床倍 ■ X 打ちなし(想定床倍 ■ エン打ちなし(想定床倍 ■ エン建告1460号(注 ■ エ羽子板ボルト、山形丁 ■ エンほそ差し、釘打ち、 ※ 枠組 壁 工法は、柱頭柱部 ■ 基礎形式 ● 鉄筋コンクリート(健全) ● 無筋コンクリート(健全) ● 無筋コンクリート(健全) ● 無筋コンクリート(健全) ● 無筋コンクリート(超微ない) ● 玉石(足固か・氏盤) ● 玉石(足固かなし) ● その他(ブロック基礎) 	*信車0.55×満) 畜合する仕様 パレートVP等 かすがい等 即の低減は不要(1.0)で れが生じている) ひび割れが生じている)

×ŧ

項目	説明	仕様·低減係数等
施主名	全角28文字(半角56文字)で施主名を入力し	
	ます。	
	※建物名は「施主名」様邸と自動入力されます	
	ので入力は不要です。	
物件コード	物件管理等にご利用下さい。	
調査日	物件調査日が入力できます。	
郵便番号	郵便番号を半角数字-(ハイフン)無しで入力し	
	[参照ボタン]をクリックして下さい。都道府県、	
	市区村町、番地等が自動入力されます。	
診断者	登録されている診断者を選択します。	
竣工年月	竣工年月を入力します。	【参照】表 24 劣化度による低減係
	※築年数10年以上と10年未満で「劣化度によ	数(P.63)
	る低減係数」の計算方法が変わります。	

-		-	
	_		_

建物階数	建物階数を選択します。※平屋の場合は必ず1	
	F建と入力して下さい。	
住宅金融公庫	建てられた際の住宅金融公庫融資「有」「無」を	
	選択します。	
モジュールピッチ	ピッチを選択するか直接入力します。一旦設定	
	した後は変更できませんので、ご注意下さい。	
外壁仕様	軸組と合わせて建物の外壁仕様を登録されて	【参照】表 10 工法と壁基準耐力
	いるリストから選択します。	(P.55)
地盤	地盤の状態を選択します。地盤「非常に悪い」を	【参照】表 7 地盤による必要耐力
	選択した場合には初期設定で必要耐力が 1.5	の割増(P.53)
	倍されるようになります。倍率は診断者の判断	
	で 1.1~1.4の間で 0.1 刻みで設定できます。	
地形	地形の状態を選択します。	
構法/構造	構法を選択します。(在来軸組構法・枠組壁工	【参照】表 18 その他の耐力要素の
	法:方法1 伝統的構法:方法2)一旦設定した	耐力(P.59)
	後は変更できませんので、ご注意下さい。	
	方法1で伝統的構法も診断可能であるが、その	
	際には建物概要の備考部分に明記して下さい	
混構造割増	立面的な混構造の場合、鉄骨造または鉄筋コ	【参照】
(1F構造)	ンクリート造を選択します。	表 9 混構造係数(P.54)
形状割増	建物短辺の長さを選択します。	【参照】表 8 形状割増加算(P.53)
適用条件確認	- 建物が一般診断法の適用対象か確認します。	
	チェックが入らない物件は診断できません。	
建物重量	屋根の仕様を目安に「軽い建物」「重い建物」	【参照】表 1 建物の重さ(P.50)
	「非常に重い建物」を設定します。※設定によっ	
	て「必要耐力」の値が異なります。壁の仕様が	
	著しく異なる場合には実状に合わせて安全側に	
	設定します。	
積雪	積雪深さを入力します。	【参照】表 5 多雪区域加算(P.51)
地域係数Z	地域係数Zを選択します。	【参照】表 6 地域係数Z(P.51)
床仕様	床仕様を選択します。1 辺が 4m 以上の吹抜が	【参照】表 23 床仕様(P.62)
	ある場合には床仕様を1ランク下げて下さい。	
柱頭柱脚接合部	耐力壁端部の柱頭柱脚の接合部を設定しま	【参照】表 16 基礎柱接合部仕様
	す。接合部皿は通し柱に囲まれた構面上にある	(P.59)
	耐力壁は接合部Ⅲとし、それ以外はⅣとする自	
	動で行います。	
基礎形式	基礎仕様を選択します。	【参照】表 17 基礎仕様(P.59)

④ 機能設定情報入力

耐力壁の表示内容の修正、評点の表示色、必要耐力の算出方法などの設定等を行います。

≪操作方法≫

① メニューバーより[設定]-[設定]を選択します。

- ●耐力壁倍率:耐力壁の情報を表示する際、壁の耐力の表示単 位を基準耐力(kN)から壁倍率に切り替えるこ とができます。
- ●評点表示色:危険(赤)となる数値、安全(黒)となる数値 を2つ設定できます。それらの数値の間がや や安全(青)となります。

●床面積あたりの必要耐力の算出方法:

必要耐力を「総2階・総3階と想定した方法」で算出するか、 精算法で算出するか選択できます。

- ●偏心率表示:図面入力時の偏心率確認枠設定ができます。
- ●低減係数 eKfl:総合評価における耐力要素の配置等による 低減係数 Eを4分割法における充足率から 計算するか、偏心率による低減係数を計算 するかの設定ができます。ただし床面積あ たりの必要耐力の算出方法を「精算法」とし た場合には、この設定は必ず偏心率となり ます。
- ●柱表示設定:現状および補強案の出力帳票に N 値・接合部 仕様・接合金物を表示するか設定できます。
- ●フッター印刷:出力帳票に記載される以下の内容を印刷す るかどうかの設定ができます。

「本補強プランは偏心率や壁量の改善等優 先順位をふまえ作成しております。

実際の補強工事の際は現場に即した補強設 計を作成し建築士による指導を受けて下さ い。耐震補強設計を検討する場合には1Fを 優先して行って下さい。」

◎ 壁基準耐力(kN	/m) 🔘 壁倍	率(倍)	
評点表示色			
赤1	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	黒	
床面積あたりの必要而	打の算出方	£	
◎ 総2階・総3階と想	定した方法		
◙ 精算法			
偏心率表示	低減化	系数eKfl	
◉0.15 ◎0.3	0 04	分割法	@ 偏心率
柱表示設定			
現状	_N値 ▼1	要合部	
補強案 💿	/ N値 🛛 1	接合部	☑ 接合金物
フッター印刷			

【低減係数の設定と有開口壁の評価について】 低減係数 eKfl を「4 分割法」に設定した場合に は、領域における保有する耐力について有開口 壁の耐力を評価しません。

低減係数 eKfl を「偏心率」に設定した場合は、 剛心位置の計算の際に有開口壁の耐力を評価し ます。

※各階のX方向・Y方向いずれかの保有耐力が 0である場合には「保有耐力のない階・方向 があるため、配置による低減係数を「偏心率 にした計算は実行できません。」というダイフ ログが表示されます。

⑤ 劣化度低减係数入力

劣化度低減係数アイコン 係数 をクリックして、図のように設定します。

劣化度による低減係数 dK

37	本 2/六	材料、	小ル古母	存在	点数	劣化
2	리고	部材等	ちに争家	10年未満	10年以上	点数
P +	8***	金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある			
座1	风车合们	瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある		₩ 2	E 2
	1.1	軒・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	2	2
	(1) <u>H</u>	縦樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	2	2
		木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある		0 20	
	外壁	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある		[72] J	
f:	±上げ	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある	L 4	<u>w</u> 4	
		モルタル	こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある			
	露出	出した躯体	水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある	2	☑ 2	2
15		木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある			
N	手す	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある		✓ 1	1
コ	り壁	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある		_	
-		外壁との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ・剥離がある	1	▼ 1	1
8.1		床排水	壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い		☑ 1	1
1	一般室	内壁、窓下	水浸み痕、はがれ、龟裂、カビがある	2	2	2
内腔		タイル壁	目地の亀裂、タイルの割れがある			
± ∣	沿垒	タイル以外	水浸み痕、変色、龟裂、カビ、腐朽、蟻害がある		₩ 2	2
Í	с. 	一般室	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	2	2	2
床	床面	廊下	傾斜、過度の振動、床鳴りがある		☑ 1	1
1	床下		基礎のひび割れや床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	2	2	2
590		6 s.	· 合 計			1000

劣化度による低減係数 dK

·存在点数・劣化点数については、調査を行った場合にチェックして下さい。

・補修後の診断における劣化低減係数の上限は0.9(現状が0.9を上回る場合は、その値)となります。

キャンセル

1.0000

1-(劣化点数/存在点数)=

OK

X

メモ 竣工年によって 10年未満か 10年以上のチェック欄が自動で切り替わります。

初期値では、存在点数へ全てチェックが入っていますので該当しないところはチェックを外して下さい。

また、劣化点数ヘチェックすると自動的に存在点数ヘチェックが入ります。

【参照】表 24 劣化度による低減係数(P.64)

また補強プラン作成時の「劣化度による低減係数」は、最大で 0.9 となります。ただし現状の低減係数が 0.9 を上回る場合には、その数値が最大となります。

|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

6 地盤・地形・基礎の注意事項設定

建物概要で設定した地盤、基礎の状況に応じたコメントを編集します。地盤基礎アイコン 基礎 をクリックします。

※地盤・基礎の注意事項の記載例を採用する場合には、その記載内容は入力者の責任であることを十分に理 解された上で選択して下さい。

注意事項設定

合評価用	1	• 7	重좇貝	地盤	•	内容	Luv 普通		
寺に問題は	ありませ	ho							
師用									
寺に問題は	ありませ	4.0							
×地盤·基	.礎の注意	ま事項の	回記載你	列を採用す	る場合(2	(J. 70.	記載内容は		

≪操作方法≫

- ① 「項目」から[現状]を選択します。
- ② 「種類」から[地盤]を選択します。
- ③ 内容は「建物概要」でチェックしたものが選択されています。
- ④ 「詳細用」の中には初期値として「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」の注意事項が記入されるので、
 実状に応じて修正して下さい。

※診断者の所見として、必ず何かしらの説明をご記入下さい。

⑤ 地形・基礎についても同様に入力します。
 メモ 補強案の場合は項目を[補強案 1]~[補強案 3]に設定して同様に入力を行います。

	•					•	•	•		•			•	•	
7	間	2入2	ታ												
部															
		<	>												

部屋アイコン^{部屋}をクリックします。部屋名称を選択して「対角」か「囲み」で入力します。



メモ 部屋が入力されると壁下地が設定され、下地材の記号の表記と自動生成によって各耐力壁の面材に設定されます。下地材については必要に応じて「下地」欄から該当するものを選択して下さい。 吹抜については通常の部屋と同じように「部屋」として入力し、床面積に含めます。なお1辺が4m以上の 吹抜がある場合には、「建物概要」内の床仕様を1ランク下げて下さい。【参照】部屋名称メンテナンス (P.46)

開口部

F

開口部アイコン 開口 をクリックします。戸、窓は2点で、雨戸、半壁は特殊ボタンを選択して3点で入力します。



29

柱	
柱アイコン <mark>柱</mark> をクリックして柱(接合部)の入力・仕様変更を行います。	
※接合部仕様Ⅲ・Ⅳについては、通し柱および両端に通し柱がある構面部分は接合部仕様Ⅲ、それ以外を接合部Ⅰ	∀として
います。	
※柱を「自動生成」で作成する場合には、一旦自動生成を行った後、不要な柱を削除して下さい。	
※柱の自動生成を行わない場合には、柱がある場所を確認の上、入力を行って下さい。	
メモ 建物情報で設定された柱頭柱脚接合部の仕様を自動生成によって個々の柱に対して割り当てます。	
方法2(伝統的構法)の場合、120mm 以上の独立柱に対する垂れ壁スパンおよび垂れ壁・腰壁ス	
パンを認識します。	
【参考】表 19 垂れ壁付き独立柱一本あたりの耐力(P.59)	
表17 垂れ壁・腰壁付き独立柱一本あたりの耐力(P.60)	

自動生成



自動生成アイコン自動をクリックします。属性ダイアログを設定して柱、基礎、壁、耐力壁を生成します。

今回の例では軸組が入る部分が少ないので「軸組を生成する」のチェックを外して自動生成します。



メモ 自動生成は以下の内容に従って処理されます。必要に応じ下記の一部または全部を生成できます。
●柱:部屋頂点、開口端部
●壁:部屋境界線上
●耐力壁(面材):開口の無い 600 ミリ以上の柱間の壁上
●耐力壁(軸組):開口の無い 900 ミリ以上の柱間の壁上
※方向不明で生成されます。
●基礎:部屋区画辺上

耐力壁

自動生成によって玄関・廊下・階段部分等に耐力壁が生成されるので、不要な耐力壁を削除します。

0.0 1 Wit - Haris - Haris - History 壁茎弹轰打力 2.4 k.N/m **BONE** . รวงชิม 🔿 ชีวีม 篇10(1本材20030以上。 削除 補強不可壁 回方向干明 柱朗 @ 左(下) ② 右(上) 回 ○ 外部 ④ 内部 □ 期線 (右/上) [仕上げなし 窓 窓 便所 C_ 掃出 階段 洗面所 C 玄関 橋 浴室 仕上げなし 削除 3 Ŧ 基础计律 郎 THE 掃出 無筋コンクリート基礎位 ~] 撮出 播出 1045-7-1141 該 -筋かい 台所 和室 押入福 33 筋かい 明音 (編こ中)× (編こ中)× 必要計力>0×0 (楽明行力>0×0 (条明行力>0×0 (条明行力>0×0 (序点×) 評点× 0.09 23.86 23.86 21.03 13.26 0.88 0.55 地点を入力して下さい

07

また軸組を追加し、浴室部分の耐力壁を補強不可壁に変更します。

≪操作方法≫

- ① 耐力壁アイコン 耐力壁 をクリックします。
- ② 削除モードに切り替えます。(削除アイコン 削除 をクリック)
- ③ 削除したい耐力壁をクリックします。
- (4) 変更モードに切り替えます。(変更アイコン ^{変更} をクリック)
- ⑤ 軸組を入れる耐力壁をクリックします。
- ⑥ 「軸組」ボタンにチェックを入れます。
- ⑦ 補強不可壁に変更する耐力壁をクリックします。
- ⑧ 「補強不可壁」ボタンにチェックを入れます。

※斜めの壁は 45°以下の方向に対して、壁長×cos θの長さの壁と して評価します。(θ=45°の場合には X・Y 両方向の評価に含 まれます)







2Fの入力

入力階切り替えタブで2Fを選択し、1Fと同様の入力を行います。







【区画入力時の扱い、及び区画に関する注意事項について】

項目	バルコニー	小屋裏	ポーチ
共通事項	部屋との取り合い部分を除き、耐	対力壁等の設定はできません。特に	玄関ポーチなどで床剛性や強度
	があることから耐力評価できる壁	きを持つ場合は、玄関ポーチを「区	画」ではなく「部屋」で入力し
	て下さい。		
床面積への	「跳ね出し部分の床面積×	「小屋裏面積×小屋裏高さ/	入力された面積分を入力階に加
反映	0.4」を下階床面積に加算しま	2.1」を下階床面積に加算しま	算します。
	す。	す。	
4 分割法に	跳ね出した先端部分を4分割法	-	ポーチを考慮します。
おける扱い	の最外線とします。		
偏心率計算に	「跳ね出し部分の床面積×	-	「床面積あたり重量×面積」を
おける扱い	0.4」を下階の重心計算時に考		入力階の重心計算時に考慮しま
	慮します。		す。
その他	・接合部仕様を評価する際、バ	・混構造建物の場合、RC・S	-
	ルコニー下の部屋については	造部分(1 階)へは面積が加	
	「最上階」として考慮されま	算されないため、「面積設	
	す。	定」より手動で入力する必要	
	・跳ね出していないバルコニー	があります。	
	部分については荷重を考慮し		
	ません。荷重を考慮する場合		
	には、バルコニー部分を部屋		
	として入力する等、実況に応		
	じて適切に入力して下さい。		

面積設定

[設定]メニューの[面積設定]を選択します。

小屋裏高さの入力と床面積を確認・修正します。今回は変更しません。

床面積	-		小屋裏高	ž	
3階		m²	3階		m
2階	23.18	m²	2階	0.00	m
1階	39.25	m²	1階	0.00	m
	床面積取得		ОК		キャンセル

情報表示

現状の各階、各方向の評点を確認します。 情報表示アイコン との たんしょう します。

	偏心率	必要耐力(kN)	保有耐力(kN)	評点
3階×				
3.腥人				
2階×	0.12	9.20	9.03	0.98
2階Y	0.00	9.20	8.59	0.93
1階×	0.18	24.51	21.03	0.85
1階~	0.09	24.51	13.26	0.54
		0	ОК	キャンヤル

メモ 情報表示ボックスは入力階についてのみを表示します。

8 耐震診断

耐震診断を行うには以下の手順が必要です。間取り等が変更になった場合にはこの手順で更新が必要となります。

≪操作方法≫

出力画面アイコン
 出力画面アイコン

※出力画面に切り替えると以下の内容が変わります。一度も「耐震」をしていない場合は、何も表示されません・



項目	入力画面	出力画面
タイトルバー	〇〇様邸-現状-平面〇階	OO様邸-現状-耐震結果O階
入力階切り替えタブ	平面OF	耐震結果OF
図面	-	通り芯、寸法線、ねじれ線(剛心を軸にして、
		重心を重りとしてねじれる)が表示
ツールバー	部材メニューが選択可能	寸法、文字、 <mark>画像、印刷</mark> が選択可能



メモ メニューバーの[設定]にて、必要耐力の算出方法を「総2階・総3階と想定した方法」「精算法」のいずれかに設定できます。また低減係数 eKfl の算出方法を「4分割法における充足率からの計算」もしくは「偏心率による計算」のいずれかに設定できますが、必要耐力を精算法で算出する場合低減係数 eKfl は必ず偏心率で計算します。
 ③ 印刷アイコン 印刷 をクリックします。 	
④ 印刷設定ウインドウで印刷(確認)する帳票をチェックし、[出力]をク リックします。	出力設定 ② 表紙 ③ 総合評価 ④ 地盤基礎 ④ 平面図 ④ 基礎伏図 ④ 必要耐力 ④ 化要耐力 ④ 保有耐力 ⑤ 配置低減係数E ⑤ 劣化度D ※チェックした項目のみ出力します ⑥ カラー ① モノクロ 出力 をやンセル

- ⑤ 印刷ウインドウが表示されます。
- ⑥ 印刷アイコン 参をクリックして印刷します。

0.73 0.73 0.73 0.13 (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11) (11)	◆ 速 速 速 電 電 電 で で で で で で で で で で で で で	*********************************	法サンブル 様郎 法 リート 差し、新打ち、かす しくは最上階として 行気度(現定)に登り (8.01世) (17.53年)	がい等 計算する ほった方法) 5.5以上1.0未満 「 11.61 13.23 11.61 4.53 38.12	建	2 万法1 万法1 (福山軍) 100 100 110 100 110 100 11.0 0.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0 11.0 1.0		かなたの ^{10: k N} の 動力 ・ の 動力 ・ 「 「 ド の 動力 ・ の い い の し い い の い い い の い い い の い い い の い い い の い い い の の い い の の い い の の い い い の の い い い い い い い い い い い い い	家の強さ((保有・必) (0新力	要 耐力) - 保納功 2FV 料定 UZIV 料定	
	送地型	 事項:地盤・基礎 地盤・地形・基礎 登:悪い ※平坦 ※新コンクリート 	対策 健全				注意事項		0.7未満		まする可能性が高 	

⑦[ファイル]-[アプリケーションの終了]で印刷ウインドウを終了します。

9 補強プラン

補強プラン取り込み

現状データを補強案に取り込みます。

≪操作方法≫

現状/補強案タブ切り替えで「補強案1」タブを

選択し、プランコピーアイコン コピー をクリックし 現状を補強プランに取り込みます。



壁補強

補強する部分の耐力壁に軸組や面材等を追加します。

≪操作方法≫

- ① 耐力壁アイコン 耐力壁 をクリックします。
- ② 変更モードに切り替えます。

(変更アイコン 変更 をクリック)

- ③ 変更したい耐力壁をクリックします。
- ④ 面材の仕様を変更します。
- ⑤「補強ボタン」にチェックを入れます。

メモ補強ボタンをチェックすると、〇印の 補強マークが付きます。

※一旦補強した後、現状の下地に戻す場合は「現状に戻す」に

チェックをいれ、平面図で左クリックしてください

壁基準耐力 8.0 kN/m 軸組 🗵 💿 シングル 💿 ダブル 筋かい木材 45×90以上 -☑ 方向不明 柱頭 ◎ 左(下) ◎ 右(上) 面材 ☑ ◎ 外部 ◎ 内部 □ 胴縁 (右/上) モルタル塗り壁 ✓ ○ 外部 ◎ 内部 □ 胴縁 (左/下) 石音ボード張り 基礎仕様 鉄筋コンクリート基礎(役 ▼ 🗌 補強不可壁 📃 〇印 接合部金物 Ⅳ 🔲 現状に戻す

基礎補強

基礎は耐力壁単位で基礎形式を変更します。変更は壁補強と同一の方法で行います。※今回は変更しません。

≪操作方法≫





メモ 壁端柱の柱頭・柱脚接合部の種類による耐力低減計数は、両端に設定された接合部仕様の低い側が耐力壁に連携され、基礎仕様との組み合わせで壁強さ倍率が決まります。

N の値	告示の表 3	必要耐力(kN)	金物等(これらと同等の接合方法を含む)
0.0 以下	い	0.0	短ほぞ差し又はかすがい打
0.65 以下	3	3.4	長ほぞ差し込み栓打又はL字型かど金物
1.0 以下	は	5.1	T 字型かど金物又は山形プレート金物
1.4 以下	に	7.5	羽子板ボルトΦ12mm 又は短冊金物
16115	IŦ	9.5	羽子板ボルト中12mm 又は短冊金物(共に長さ50mm 径 4.5mm の
1.0 B/F	١٨	0.0	スクリュー釘併用)
1.8 以下	^	10.0	10kN 用引き寄せ金物
2.8 以下	٤	15.0	15kN 用引き寄せ金物
3.7 以下	5	20.0	20kN 用引き寄せ金物
4.7 以下	y	25.0	25kN 用引き寄せ金物
5.6 以下	<i>b</i> a	30.0	15kN 用引き寄せ金物×2枚

<参考>接合部の仕様(建設省告示第1460号表3に対応)

※N値計算は一般財団法人 日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム」評価対象外あり、N値 計算の結果については設計者が自身の責任において用いるものです。(出力帳票の表紙にも記載します) ※N値計算に使用する有効壁倍率は、原則として「壁基準耐力/1.96」を用いています。ただし筋かい等、 建築基準法上で定められている壁倍率がある場合には、その限りではありません。

- ●表記
 - ・現状から変更された耐力壁:耐力壁の属性ダイアログの[補強]ボタンにチェックを入れると〇印が表現 されます。
 - ・補強不可壁:耐力壁内に白抜き矩形+×印が表現されます。
 - ・追加された柱:ホールダウン金物の仕様と大きなサイズの柱で表現されます。
 - ・現状から変更された柱:ホールダウン金物の仕様と大きなサイズの柱が塗りつぶしで表現されます。
 柱の属性ダイアログの[補強する]ボタンにチェックを入れると表現されます。



② 印刷アイコン 😂 をクリックします。

							総合	計	価	あなた	の家	の強さ	(保有	j.必易	要耐力))
◆連物概要							GPO - Hone			QU 42.	耐力 —	- 12	桂の耐け]	保甸耐	力
目前名称 AB2510	在未能	組織法サン	ブル 様	85		12	01040	10	6							
備考	26.07.89	C				1	創作の方法	方法1			16	1				
根法	在来触	組織法				1	RAH DE	偏心率		0.33						
1階構造者	例木道	1.1				1	的記述證明中對係款	1.0	A COLUMN AND			1				
労墜材種 源環住##	仕上げ	ダレ				2	現上年月 総論初	1996 916	9(平638年)			1	15.2			
TEMTING	哈部 I.NI	モ差し、1	HTS. A	すがい等		2	建物重量	TELI	-		3	1				
下屋部底湖	解散 平極建	てもしくは	観上階と	して計算する		1	芸構造割増保設	1.0		1 3	3	1 1				
必要創力計	御表 精算法	(省陽の床	面積比を	考慮した方法)	2003	1		0.0				1 1				
201113	28 28.	15 TATE!	(8,01)平)	#10-55CE1-00#	NG#U		421730149 2218	4003-40								
床面積	1階 57.9	17m ² (1	7.53年)			1	1回の長さ 1階	4ml;116	m未満		3		15.8	1		
間 方向 25 <u>×</u> 11 × Y	整·柱の耐力 Qu (kN) 13.22 11.61 40.33 39.15	eKT 1 1.0000 1.0000 1.0000 1.0000 1.0000	労比度 dk 1.0000 1.0000 1.0000	保有耐力0.N) +du=du =Kf1-3K 13.29 11.61 45.39 39.12	必要納力 Gr(kN) 15.41 15.41 45.75 46.76	87.5 edûu/û 0.8 0.7 0.9 0.8	a 8 後は載する可能性 5 任は載する可能性 17 性以表する可能性 13 任以表する可能性	判定 がある がある がある		においていた。 上部編 のうちま	1F× 創辛店 読の値	1FY 174	i (.5朱満	2FX ③ 個時	2F 単定 しない 連携した	Y
注意事項: 地盤 法解:罪()	地盤·登礎 ·地形·登礎		R						注意	本項).7未満		× (10)	する可能	性が高い
地形:平坦																
温暖:無形	コンクリート	健全														
	、日本通貨約支援 LF 単くても、地帯の	1991年の「201年 これる秋春 1月17	の灯形 木島 ないことを除	u governa an U governa an	在来(かま)の一般の すん。	総合構注 東京に基づ	2サンプル機器 20歳間をおわしています。	锇	書作成日時:20	17年03月14日	18:08 Ve	2.0.0	物州	¥2-1':		現状

[ファイル]-[アプリケーションの終了]で印刷ウインドウを終了します。 3



1	シフ	テム	の絆	₹ 7																					
	保有	蔣終了	ጉ1	コン	《 [終]	7	をクリ	しっち	いし、	[保ィ	存す	る]ポ	ミタン	をク	リッ	ックし	、てき	レス	ታፊ፣	を終う	了し	ます。	0		

● 出力帳票解説

代表的な出力帳票の内容について解説します。

詳細は7. 一般診断計算方法をご参照下さい。(P.49~)





地幽	・基礎			
	地盤	対策	記入欄	注意事項
	よいが普通			
	悪い		0	
	非常に悪い	表層の地盤改良を行っている		
	(82% 20 2. 2000 m.	枕基礎である	-	
		特別な対策を行っていない		
-			1	
	地形	対策	a2入4関	注意事項
1	半坦・普通		0	4 1 1
1	がけ地・魚	コンソリート機関	-	
	FAD	「白竹町」 「山田町」またんり海道山谷山」「安日」またが、		4 I I
1		市内な対策を行うていない	1	
- T	基礎形式		記入(開	注意表面
1 1	鉄筋コンク	伊全	and south	・夏物の一体性が弱い場合、基礎を踏み外して建物がパラパラになる可能性があります。
1 1	リート基礎	7月線町和が生じている	1	床を補補するなど、習物が一体で動くような工夫をする必要があります。
T I	11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	健全		・玉石を、きちんと固定してください。
	無能コノク	軽微なひび動れが生じている		・柱、東と玉石がきちんと接していない場合には、補修が必要です。
	v - r are	での割れが生じている		District The Periodistrate Section (# 1978) 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985, 1985
	TTRM	足固め・底盤	0	
	工口至6	足圖的なし		
	その他			
1 5			1	
	主白《建固	の・應題)とは相関に足固めを説け	「鉄筋コンクリ	- ト国盟に1日期又は正国の考を解結したものです。
				建物概要で設定された地盤、地形、基礎についてコメントが
				記入されます。
10000			en grue	0 2016 # 3.4 Det southers Boil 15, 54, 16, 55, 55, 55, 55, 55, 55, 55, 55, 55, 5
ALTA DECEMBER	0 + 0 0 T		11 11 12	5)
本書の設施設型に問題	日本通知部務部署	2 学校行ら「DICFORTE」 本語語名の前面形式とき 前による結晶を任けないことを 保護するものではあい	1944 S-1929	ALL OF MERSAUL THEF.



Ŷ	腰肘力	りの算出 床面積 (m ²)		床面積あたい 必要耐力 (k N/m ²)	1	福雪用 必要耐力 (kN/㎡)		地域版註 Z		軟弱地盤 割増係数	Γ	形状割増係	22番組 必要能力 数 教明新務32 (NN)
	2階 1階	28.18 39.25	×(0.8700 D.8100	+	0.00 0.00	1×	1.0	×	1.0	×	1.00	\times 1.0 = $\frac{8,57}{32.57}$
T	力要素 修行(2)	の配置(施) 4	こよる	6 低減係费	如用。	必要耐力							
		床面積 業備を (m)	Τ	床面積あたい 必要利力 (k N/m²)	1	相管用 必要的) (kN/品)		地場/殺 Z	Γ	軟弱地盤 割增係数	Γ	形状 割増係	建物情報の階数や建物の重さから床面積あたりの
	2階 1階	4.55	×(D.3700 D.8100	+	0.00 0.00) × (1.0	×	1.0	×	1.00 1.00	
	桁行(X)	方向 5 床面積 経路5	T	床面積あたい 必要対力	ų	括雪用	Î	地增極数	Ť.	軟弱地盤	T	形状	を求め、他記区域係致、地震係致 Z、地盤による
	2階	(m ²) 6.21	×	(k N/m²) 0.3700	+	(KN)/#) 0.00)×	2	×	1.0	×	1.00	形状割増係数、混構造割増係数を間取情報か
	1.82	3.31		0.8100		0.00						1.00	床面積に乗じて必要耐力を算出します。
	遊開(Y).	方向イ 床面積 桁行イ		床面枝あたら 必要耐力		- 積雪用 必要耐力		地域/税数 2		教務地盤		形状	▲公割注で必要計力を求めた場合け 漆明・佐行
	2階 1階	(m ^c) 6.21	×	(k N/m ⁴) 0.2700 0.3100	+	(kN/m²) 0.00)×	1.0	×	1.0	×	1.00	4万割広て必安町刀で木のに場合は、米间・1111
	梁明(1)	方向 口	-	TEITE		Tem	-	INTERVER		IN TUMO	-	TTC 4.1	れについて必要耐力を算出します。
		抗行日 (m ²)		必要耐力 (kN/m ²)		包里用 必要耐力 (kN/m ²)		Z		割增係數		割增任	截 事時制務数 Or
	2階 1階	4,96 9,31	×(0.8700 D.8100	+	0.00 0.00)×	1.0	х	1.0	×	1.00 1.00	× 1.0 = 1.88 7.79 3999
								- 2014 42				All of the All of	Dekrenneken Der⊡erren Marie ein dabte birt alltit eine

位置	Y	×	記号	盤の仕補	基準 耐力	望基準耐力 Fm (UN/m)	接合 耐力相 Kj	部氏流	盤長 し (a)		Ovi	0w =Σ 0wi	0ei	Ue ∶∑ Oei	0u 0+10e
(n)	8	8- 3	C C	石膏ボード洗り(厚助)上) 石膏ボード洗り(厚助)上)	1.10	2.20	× n	. 63 2	. 0.	11 -	1.21				
	5	10-11	C M	石倉ボード張り(厚助)上) 木ずり下地モルタル塗り	1.10 2.20	3.30	x 0.	. 33)	0.1	- 19	1.01				
	6	7- 9	C M	石雪ボート外り(厚切)上) 木ずり下地モルタル塗り	1.10	3.30	x 0.	.33)	1,	32 =	2.01	4.27			
	5	9-10 8-7		몇칠베미 (양호베미		0.60	X)	0.3	31 =			0.54	1.63	5.8
前行 (中央)	4	6- 8	C	石音ボード張り(厚駅以上) 石音ボード張り(厚峠以上)	1.10	2.20	ж 0	. 63)	1.1	- 20	2.51	2.52			
研行	4	5-8	н	掃き出し型間口 未ずり下地モルタル塗り	2.20	0.30	x	,	0.1	- 11			0.27	0.27	2.7
(6)	1	10-11	C	石雪ボード外り(厚約以上) 末ずり下地モルタル塗り	1.10	3.30	x 0.	. 33)	0.1	91 -	1.00				
	1	8- 8	C	石會末一下韩可(摩取上) 溶型間口	1.10	3,30	x 0. ×	. 33)	0.1	1 = 2 =	1.01	2.01	1.09		
- AFF	1	8-10		2011 2011		0.60	x	0	1.	32 =		0.01	1.09	2.18	4.1
እታ	」され :り求	にた而	寸力 接合	壁(壁基準耐力 Fw×長 計部低減係数 Kj を乗じま	さ L)に す。それ	、耐力 いぞれに	壁こと ついで	121 7 4	設定さ 分割	きれた 法で	基礎	仕様と	柱ごと 注間・桁	に設定	!され; :に無



	劣化现	による低い	戦係数 すべ						
		創位	林和. 日時村等	劣化事象	64.8	存在点版 に潤い年以下	劣化		
	102.40		金腐板	変通色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある	,	Ø	2		
	120	* #さ村	エスレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある		-			
		f.B	開き子の開	太治巴、さ(人 割) 、 すれ、 大強がめる		0	2		
	-	877112		2028日、さい、新作、チ作、大治かの今 次浸み線、二け、前れ、海洋筋、ずれ、腐朽がある		0	2		
	1.2	件相關	軍事系サイティング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある		1000			
	1	THIT	金暦サイディング	変活色、さび、さび穴、ヂれ、めくれ、目地空き、シール切れがあ	5 1	۲	4		
	1.0		モルタル	こけ、0.8m以上の地料、制箔がある		0.000			
			観出した躯体	水浸み痰、こけ、食朽、柴道、髪舎がある	2	(2)	2		
	15	1440	木製板、合板	水液み展、こけ、割れ、揚げ節、ずれ、腐朽がある	1.12	1.00	- 69		
	1V	キサ	重業糸サイティング	こけ、割れ、すれ、欠倍、シール切れためる	- 1	Φ	3		
1	-	2.28	江和リュティンシー	「人物素」のは今朝一番割「陶明」編3、シール的トル時代本3。	2				
	7		Latek	「「「「「「」」」」、「「「」」、「「」」、「「」、「」、「」、「」、「」、「」	1	0	1		
1		一股案	内壁 室下	水浸み線、はがれ、魚裂、カビがある	2	Ø	0		
	内	100.000	2114	目地の曲裂 タイルの割れがある		0	0		
	21	781	タイル以外	水浅み底、変色、亀裂、力ビ、席朽、発客がある	<u> </u>	ø	Ψ		
1		(देलेक	一般重	「傾斜、過度の搐動、床鳴りがある	2	Ø	٢		
	床		一個	1484、増良の損動、床憩りがある	1	0	0		
1		18.1		金崎のの心器(111)は、120月に離り、渡辺、第名ののつ		0	0		
	<u> </u>			U 81		29	-		
	家住	聞こよる	ERIER dK	1-(4	出土 古 49/4	(持た东)=	0.7000		
				劣化度による	6低源	城係数	dK ð	求めるため	めのチェック
				シートの内容		ころさ	hます	0 0.0 860.2~F	18 17 o. 54
*****			10. (P) 0.4.4305 (8±6)	いたいかっていたいです。 いたいたちの利用が何とうかみないの一般が明ねた基づたに見てきたしています。		in the state			19.99 B.04
	COLUMN	最くても、元章	れによる邪魔を受けたいことを成れ	するものではありません。					



低減係数 eKfl の変更方法や下地材の登録方法等を習得します。

診断会社情報

建物情報、出力帳票に記載する診断会社を登録します。一度設定すれば毎回設定する必要はありません。

≪操作方法≫

- メニューバーより[マスターメンテナンス]-[診断会社情報]を選択します。
- ② 必要な内容を入力して[OK]をクリックします。

情報展		
会社名		
住所1		
住所2		
電話番号		
FAX番号		
その他		

診断者メンテナンス

建物情報、出力帳票に記載する診断者を登録します。複数登録できます。

≪操作方法≫

- メニューバーより[マスターメンテナンス]-[診断者メン テナンス]を選択します。
- ② [追加]ボタンをクリックします。

3) 必要な内容を	入力して	LO K]をク	リック	フします。
-----------	------	---------	-----	-------

	p	信報	表示課
1 地名 2 地名	篇大进5 集花子	841081 841082	1
通道	- #X	8,52	OK ANCHER
:6%		80.58	OK DHONEN
湖		954	OK PACE
湖	*ンテナンス	864	OK PHAL
_{総和} 断者メ No	×ンテナンス 2	2024	OK Proto
^{編38} 断者メ No 名称	*** シテナンス 2 地震花子	934	45%+9
^{総数} 断者メ No 名称 情報	*** シテナンス 2 地震花子 941002	2039	0X 94/UL
²⁰⁰ 断者メ No 名称 情報 表示順	** *ンテナンス 2 地震花子 941002 1 2	2029	0K 94/UL
MN 断者メ No 名称 情報 表示順	 エンテナンス 2 地震花子 941002 2 	2019	0K 94/Uk

- - ●NO:半角数値 10 桁以内で入力します。システム上の ID 番号です。連番である必要はありませんが同一番号は 入力できません。
 - ●名称:全角 50 文字以内(半角 100 文字)で入力します。建物情報では名称がリスト表示され、出力帳票に印刷 されます。
 - ●情報: 全角 50 文字以内(半角 100 文字)で入力します。社員番号や診断者を特定する内容を記入します。出力 帳票に印刷されます。
 - ●表示順:半角数値 10 桁以内で入力します。リスト表示される順番を登録します。この数値が少ないものからリ ストの上部に表示されます。

部屋名称メンテナンス

部屋入力時のリストをメンテナンスできます。よく入力するものを表示順で調整したり下地内容を変更したりします。 下地は下地メンテナンスにて登録されている情報が設定できます。新たに下地を追加する場合は下地メンテナンスで追 加して下さい。

部署名称メンテナンス

≪操作方法≫

① メニューバーより[マスターメンテナンス]-[部屋名称

④ リストに反映されたことを確認し[OK]をクリックしま

- メンテナンス]を選択します。
- ② [編集]ボタンをクリックします。

③ 必要に応じて内容を修正します。

名称 階段 電空 線面 標の間 神入 町 下地村 構造用でネル(OSI0 応が、ナギ(10500) 筋が、水村45500) 筋が、水村45500) 表示時 40 13 14 15 15 OK 495/04 -部屋メンテナンス 18 No 名称 納戸 下地材 石音ボード張り(厚9以上) -表示順 180 OK キャンセル

下地材メンテナンス

建物情報、部屋、耐力壁で設定するための下地をメンテナンスできます。

≪操作方法≫

す。

- メニューバーより[マスターメンテナンス]-[下地材メンテナンス]を選択します。
- ② [追加]ボタンをクリックします。



- ③ 必要な内容を入力し[OK]ボタンをクリックします。
 ※記号は筋かいのみに反映されます。
- ④ リストに反映されたことを確認し[OK]をクリックします。

No 1000			
名称 NEWかべつよし	1		
记号			
音率(kN/m) 7.31	倍率(倍)	3.1	
■軸組 図面材	☑ 内部	☑ 外部	
表示,順			

- - ●NO:半角数値 10 桁以内で入力します。システム上の ID 番号です。連番である必要はありませんが同一番号は 入力できません。
 - ●名称:全角 50 文字以内(半角 100 文字)で入力します。指定した適用のリストに表示され、出力帳票の各種諸 表に印刷されます。
 - ●記号:軸組のサイズや下地材の記号を図面表記するために入力します。
 - ●倍率:半角数値小数点第2桁で入力します。 属性ダイアログでの壁強さ、耐力関連の各種計算の根拠出力帳票に印刷されます。 ※耐力計算の最も重要な部分なので注意して入力して下さい。
 - ●適用:胴縁仕様、土塗り仕様、軸組、面材、内部、外部等、指定した適用のリストに表示されます。
 - ●表示順:半角数値 10 桁以内で入力します。リスト表示される順番を登録します。この数値が少ないものからリストの上部に表示されます。
 - **メモ**新たに追加されたもの、編集されたものは、出力時「壁の耐力」「壁の仕様」の名称の前に※印が付きます。また、フッターへ「※は(一財)日本建築防災協会で認定された仕様ではありません」と表示されます。
- ※下地材の名称の先頭に【診断専用】と書かれているもの(新規登録したものを含む)は、補強案で新規に入力・変更す ることができません。

※下地材メンテナンスのご利用に当たってのご注意

本プログラムは「不明な壁仕様」(「2012 年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」p.30)の入力に対応しておりません。ご利用に当たっては「不明な壁仕様」を用いないよう、お願いいたします。

•		
×Ŧ	•	
•	既に入力されている下地材は、主に「2012年改訂	版 木造住宅の耐震診断と補強方法」(一般財
	団法人 日本建築防災協会発行)に準拠した内容と	なっているため変更は表示順、適用場所のみ
	となります。内容を変更する場合は、新たに下地を	追加し、表示順を調整して使い勝手を向上さ
	せて下さい。	
•	土塗り壁についての注意点	
	軸組として土塗り壁を表現する場合は以下の注意	点があります。
1	軸組名称に「土塗り」の文字があると、優先的	(= 曲組 600
	土塗り壁と認識するため耐力壁の入力制限は	図 ⊚ シングル ○ ダブル
	900mm 以上ではなく 600mm 以上となります。	土塗厚40mm以上~50 ▼
		☑ 方向不明
		桂頭 ◎ 左(下) ◎ 右(上)
2	軸組名称に「筋かい」の文字があると、優先的	- 軸組 900
	筋かいを認識するため、耐力壁の入力制限は	図 ● シングル ◎ ダブル
	以上となります。	※土塗厚40mm以上~ ▼
	左記の場合、土塗り壁の 600mm 以上~900mm 未	□ 方向不明
	耐力は加算されません。	柱頭 ◉ 左(下) ◎ 右(上)
3	軸組名称に「土塗り」の文字があると、面材側に同	じ ♥●● シングル ● ダブル)
	土塗り壁を設定したとしても面材側の強さ倍率は	₩ **主 ^{注厚40mm以上~} •
	価されません。他の面材は評価の対象となります。	
		面材
		□ Arbus (石/上) 土塗厚40mm以上~50 ▼
		□ ハウルネ (左) 17/ 石音ボード張り
4	軸組名称に「筋かい」の文字があると、筋かいの	レングル/ダブルの選択が可能になります。
2	主意:下地材メンテナンスにて「筋かい+〇〇」と追	加した場合、ダブルを選択すると軸組の耐力
	がそのまま2倍になります。	
(5)	面材名称に土塗りの異なる厚みのものを設定した地	易合、 面材 ···································
	壁強さ倍率の低いものが優先されます。	
		土塗厚90mm以上 ▼
		☑ ◎ 外部 ◎ 内部
		□ 肥稼 (左/ト) + 注意厚40mm ¹ 1 ト~50 -

.

49

-般診断計算方法

木耐博士 N の理解を深めるために「2012 年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」(一般財団法人 日本建築防 災協会発行)より内容を抜粋・掲載しています。最新情報は一般財団法人 日本建築防災協会にお問い合わせ下さい。 ※各種数値の計算に当たり最終的に表示される数字については下記の条件によります。

①:評点は小数点第3位を【切り捨て】②:必要耐力は小数点第3位を【切り上げ】

③: 接合部耐力低減と壁長は小数点第5位を【切り捨て】

④:配置による低減係数 eKfl・劣化度 dK・床面積あたり必要耐力は小数第5位を【四捨五入】

⑤:①~④以外の項目は小数点第3位を【四捨五入】

必要耐力 Qr

必要耐力 Qr 床面積×(必要耐力係数+多雪区域加算)×地震係数 Z×軟弱地盤割增×形状割增×混構造割增

表 1 建物の重さ

建物の重さ	仕様	想定床面積あたり重量(N/m2)		
軽い建物 石綿スレート板		石綿スレート板(950) ラスモルタル(750) ボード壁(200)		
重い建物	栈瓦葺	桟瓦葺(1300) 土塗壁(1200) ボード壁(200)		
非常に重い建物	土葺瓦屋根	土葺瓦(2400) 土塗壁(外・中壁)(1200+450)		
床荷重(600) 積雪荷重(600)				

表 2 床面積あたりの必要耐力係数(kN/m)

対象建物		重さ		
		軽い建物	重い建物	非常に重い建物
平屋建て	1階	0.28Z	0.40Z	0.64Z
の叱ゅイ	2階	0.37Z	0.53Z	0.78Z
2泊建し	1階	0.83Z	1.06Z	1.41Z
	3階	0.43Z	0.62Z	0.91Z
3階建て	2階	0.98Z	1.25Z	1.59Z
	1階	1.34Z	1.66Z	2.07Z

対象建物		軽い建物	重い建物	非常に重い建物
平屋建て		0.28 × Z	0.40 × Z	0.64 × Z
0吽2曲	2階	0.28 × qKfl2 × Z	0.40 × qKfl 2 × Z	0.64 × qKfl 2 × Z
乙的连	1階	0.72 × qKfl 1 × Z	0.92 × qKfl 1 × Z	1.22 × qKfl 1 × Z
	3階	0.28 × qKfl 6 × Z	0.40 × QKFL6 × Z	0.64 × QKFL6 × Z
3階建	2階	0.72 × qKfl 4 × qKfl 5 × Z	0.92 × qKfl 4 × qKfl 5 × Z	1.22 × qKfl 4 × qKfl 5 × Z
	1階	1.16 × qKfl 3 × Z	1.44 × qKfl 3 × Z	1.80 × qKfl 3 × Z

表 3 各階の床面積を考慮した必要耐力の算出法【精算法】(kN/m)

表 4 qKfl1から qKfl6の計算式(精算法)

	軽い建物・重い建物	非常に重い建物
qKfl1	0.4+0.6Rf1	0.53+0.47Rf1
qKfl 2	1.3+0.07⁄Rf1	1.06+0.15∕Rf1
qKfl 3	(0.25+0.75Rf1)×(0.65+0.35Rf2)	(0.36+0.64Rf1)×(0.68+0.32Rf2)
qKfl 4	0.4+0.6Rf2	0.53+0.47Rf2
qKfl 5	1.03+0.1/Rf1+0.08/Rf2	0.98+0.1/Rf1+0.05/Rf2
qKfl 6	1.23+0.1/Rf1+0.23/Rf2	1.04+0.13/Rf1+0.24/Rf2

Rf1:1階の床面積に対する2階の床面積の割合。ただし0.1を下回る場合は0.1とする(S2/S1) Rf2:2階の床面積に対する3階の床面積の割合。ただし0.1を下回る場合は0.1とする(S3/S2)

表 5 多雪区域加算

積雪深	1m	1.5m	2m
加算する必要耐力	0.26Z	0.39Z	0.52Z

表 6 地域係数Z

		地方	数値	
	(1)	(2)から(4)までに掲げる地方以外の地方		
	(2)	北海道のうち	0.9	
I		札幌市 函館市 小樽市 室蘭市 北見市 夕張市 岩見沢市 網走市 苫小牧市 美唄市		
I		芦別市 江別市 赤平市 三笠市 千歳市 滝川市 砂川市 歌志内市 深川市 富良野市		
I		登別市 恵庭市 伊達市 札幌郡 石狩郡 厚田郡 浜益郡 松前郡 上磯郡 亀田郡		
I		茅部郡 山越郡 檜山郡 爾志郡 久遠郡 奥尻郡 瀬棚郡 島牧郡 寿都郡 磯谷郡		
I		虻田郡 岩内郡 古宇郡 積丹郡 古平郡 余市郡 空知郡 夕張郡 樺戸郡 雨竜郡		
I		川上郡(上川支庁)のうち東神楽町、上川町、東川町及び美瑛町 勇払郡 網走郡 斜里郡		
I		登呂郡 有珠郡 白老郡		
I		青森県のうち		
		青森市 弘前市 黒石市 五所川原市 むつ市 東津軽郡 西津軽郡 中津軽郡 南津軽郡		

• •			• •
		北津軽郡 下北郡	
		秋田県	
		山形県	
		福島県のうち	
		会津若松市 郡山市 白河市 須賀川市 喜多方市 岩瀬郡 南会津郡 北会津郡 耶麻郡	
		河沼郡 大沼郡 西白河郡	
		新潟県	
		富山県のうち	
		魚津市 滑川市 黒部市 下新川郡	
		石川県のうち	
		輪島市 珠洲市 鳳至郡 珠洲郡	
		鳥取県のうち	
		米子市 倉吉市 境港市 東伯郡 西伯郡 日野郡	
		島根県	
		岡山県	
		広島県	
		徳島県のうち	
		美馬郡 三好郡	
		香川県のうち	
		高松市 丸亀市 坂出市 善通寺市 観音寺市 小豆郡 香川郡 綾歌郡 仲多度郡 三豊郡	
I		愛媛県	
		高知県	
		熊本県((3)に揚げる市及び郡を除く。)	
		大分県((3)に揚げる市及び郡を除く。)	
		宮崎県	
	(3)	北海道のうち	0.8
I		旭川市 留萌市 稚内市 紋別市 士別市 名寄市 川上郡(川上支庁)のうち鷹栖町、	
		当麻町、比布町、愛別町、和寒町、剣淵町、朝日町、風連町及び下川町 中川郡(川上支庁)	
I		增毛郡 留萌郡 苫前郡 天塩郡 宗谷郡 枝幸郡 礼文郡 利尻郡 紋別郡	
		山口県	
		福岡県	
		佐賀県	
		長崎県	
		熊本県のうち	
		八代市 荒尾市 水俣市 玉名市 本渡市 山鹿市 牛深市 宇土市 飽託郡 宇土郡	
		玉名郡 鹿本郡 葦北郡 天草郡	
		大分郡のうち	
		中津市 日田市 豊後高田市 杵築市 宇佐市 西国東郡 東国東郡 速見郡 下毛郡 宇佐郡	
		鹿児島県(名瀬市及び大島郡を除く。)	
	(4)	沖縄県	0.7

表 7 地盤による必要耐力の割増係数

地盤の分類	判断基準	必要耐力割増
	洪積台地または同等以上の地盤	
白い。並著	設計仕様書のある地盤改良	
皮い「百週の地般	(ラップル、表層改良、液状改良)	1.0
の地盤	長期許容地耐力 50kN/m ³ 以上	
	下記以外	
	30mよりも浅い沖積層(軟弱層)	
申しまま	埋立地および盛土地で大規模な造成工事(転圧・地盤改良)によるもの	10
志い地盤	(宅地造成等規制法・同施行令に適合するもの)	
	長期許容地耐力 20kN/m以上、50kN/m未満	
北告に重い	海・川・池・沼・水田等の埋立地および丘陵地の盛土地で小規模な造成工事によるもの	
非市に恋い	で軟弱な地盤	
地面	30mよりも深い沖積層(軟弱層)	

表 8 形状割増加算

●総2階・総3階を想定した算出法の場合

2 階建ての1階・3 階建ての1・2 階については短辺の長さが4.0m未満の場合にその階の必要耐力を1.13 倍する。

建物階数	1111111111111111111111111111111111111		必要耐力割増
	欲り叱凄てで 4~ キ 漢	2 階	1.0
の哔建プ	裕と陷廷して4m 木洞	1 階	1.13
2相建て	巡り哔建てで 4~ い ト	2 階	1.0
	ねと相違して4m以上	1 階	1.0
	総 3 階建てで 4m 未満	3 階	1.0
		2 階	1.13
の叱速で		1 階	1.13
う時建し		3 階	1.0
	総 3 階建てで 4m 以上	2 階	1.0
		1 階	1.0

<例>

●精算法の場合

いずれかの階の短辺の長さが 6.0m未満の場合は、その階を除く下階全ての階の必要耐力に以下の表の割増係数を 乗じた値とする。ただし、複数の階の短辺の長さが 6.0m未満の場合は、割増係数の大きい方を用いるものとする。

4m 未満	4m 以上 6m 未満	6m 以上
1.3	1.15	1.0

<例>

建物階数	短辺長さ	階	必要耐力割増
	2 陛け 4 土法 1 陛け 4 いト 6 土法	2階	1.0
05 建プ	2 隋は 4冊 木祠、1 隋は 4冊 以上 0冊 木洞	1 <mark>階</mark>	1.3
ZF 建 C	2. 陛け 4m じ ト 6m キ港 _1. 陛け 6m じ ト	2階	1.0
		1階	1.15
		3階	1.0
	3 階が 4m 未満、1 階・2 階は 6m 以上	2階	1.3
		1 <mark>階</mark>	1.3
	2 陛・2 陛が 4~ 夫漢	3階	1.0
3F 建て		2階	1.3
	1 階は 4m 以上~0m 木満	1 <mark>階</mark>	1.3
	3. What Man 以上 6m 未満	3階	1.0
		2階	1.15
	1 泊 2 泊 1 0 m 以上	1階	1.15

表 9 混構造割増係数

項目	必要耐力割増
1 階が鉄骨造、鉄筋コンクリート造で2 階以上が木造の場合	1.2

保有耐力 edQu

保有耐力 edQu	強さ Qu×配置による低減 eKfl×劣化による低減 dK
強さ Qu	壁の耐力 Qw+その他の耐震要素の耐力 Qe
壁の耐力 Qw	Σ (壁基準耐力 Fw × 壁長 L × 柱接合部による低減係数 Kj)

表 10 工法と壁基準耐力

()内は胴縁仕様の場合、【】内は枠組壁工法の場合

	壁基準耐力 Fw(kN/m)		
	途回 40 い トゥ.50 キボ	横架材まで達する場合	2.4
	空厚 40mm 以上~50mm 木海	横架材間7割以上	1.5
	途回 co	横架材まで達する場合	2.8
上谷口座	空厚 50mm 以上~/0mm 木満	横架材間 7 割以上	1.8
工堂り壁	於回 70 비노 00 十世	横架材まで達する場合	3.5
	空厚 /Umm 以上~90mm 木満	横架材間 7 割以上	2.2
	※回 00 い ト	横架材まで達する場合	3.9
	空序 90mm 以上	横架材間7割以上	2.5
	筋かい鉄筋9Φ		1.6
	筋かい木材 15×90 以上	びんた伸ばし	1.6
		BP または同等品	2.4
	肋がい不材 30 × 90 以上	釘打ち	1.9
		BP-2 または同等品	3.2
	肋かい不材 43 ^ 90 以上	釘打ち	2.6
	筋かい木材 90×90 以上	M12 ボルト	4.8
筋か	い製材 18×89 以上(枠組壁工法用)		【1.3】
	木ずりを釘打ちした壁		0.8
	構造用合板(耐力壁仕様)		5.2(1.5) [5.4]
	構造用合板(準耐力壁仕様)		3.1 (1.5)
	構造用パネル(OSB)		5.0(1.5) [5.9]
	ラスシートモルタル塗り		2.5(1.5)
	木ずり下地モルタル塗り		2.2
	窯業系サイディング張り		1.7(1.3)
	石膏ボード張り(厚9以上)		1.1 (1.1)
石膏木	ミード張り(厚 12 以上)(枠組壁工法用)		[2.6]
	合板(厚3以上)		0.9(0.9)
	ラスボード		1.0
	ラスボード下地しっくい塗り		1.3

間仕切壁、外壁の仕様別(下地材・仕上材、筋かい、面材等)の壁基準耐力。「不明な壁」は対応していない。 筋かい・壁下地材両面の値の和とする。合計値が 10kN/m を超える場合は、10kN/m とする。

表 11 壁長L

工法種別	算定する壁長さ
筋かい	90(cm)以上
面材	60(cm)以上

表 12-1 壁端柱の柱頭、柱脚接合部の種類による耐力低減係数 Kj

①2 階建ての2 階、3 階建ての3 階

壁基準耐力	2.0	3.0	5.0	7.0
接合部 I	1.0	1.0	1.0	1.0
接合部Ⅱ	1.0	0.8	0.65	0.5
接合部Ⅲ	0.7	0.6	0.45	0.35
接合部Ⅳ	0.7	0.35	0.25	0.2

②2 階建ての1階、3 階建ての1階及び3 階建ての2 階

壁基準耐力	2.0			3.0			5.0			7.0		
	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ
接合部 I	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.8	1.0	0.85	0.7	1.0	0.8	0.6
接合部Ⅱ	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.8	0.9	0.8	0.7	0.8	0.7	0.6
接合部Ⅲ	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6
接合部Ⅳ	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6

③平屋建て

豉甘洗工 工	2.0			3.0			5.0			7.0		
堂奉华顺力	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ
接合部 I	1.0	0.85	0.7	1.0	0.85	0.7	1.0	0.8	0.7	1.0	0.8	0.7
接合部 Ⅱ	1.0	0.85	0.7	0.9	0.75	0.7	0.85	0.7	0.65	0.8	0.7	0.6
接合部Ⅳ	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.3	0.3	0.3

壁基準耐力が表に掲げた数値の中間の場合、その上下の壁基準耐力の低減係数から直線補完して算出する。

壁基準耐力が 7kN/m を超えるものは 7kN/m の値を用い、1.0kN/m 未満のものの低減係数は 1.0 とする。

表 13-2 多雪区域における壁端柱の柱頭、柱脚接合部の種類による耐力低減係数 Kjs(積雪深 1m の場合)

壁基準耐力	2.0	3.0	5.0	7.0
接合部 I	1.0	1.0	1.0	1.0
接合部Ⅱ	1.0	0.9	0.85	0.75
接合部Ⅲ	1.0	0.75	0.65	0.55
接合部Ⅳ	1.0	0.75	0.6	0.5

①2 階建ての2 階、3 階建ての3 階

②2 階建ての1 階、3 階建ての1 階及び3 階建ての2 階

辟甘淮井 +	2.0			3.0			5.0			7.0		
壁墨华剛刀	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ
接合部 I	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.85	1.0	0.85	0.75
接合部Ⅱ	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.95	0.9	0.85	0.95	0.85	0.75
接合部Ⅲ	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.85	0.85	0.85	0.75	0.75	0.75
接合部Ⅳ	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.85	0.85	0.85	0.75	0.75	0.75

③平屋建て

豉甘洗料土	2.0			3.0		5.0			7.0			
堂奉华附刀	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ
接合部 I	1.0	1.0	1.0	1.0	0.85	0.75	1.0	0.8	0.7	1.0	0.8	0.7
接合部Ⅱ	1.0	1.0	1.0	0.9	0.8	0.75	0.85	0.7	0.65	0.8	0.7	0.6
接合部Ⅳ	1.0	1.0	1.0	0.75	0.75	0.75	0.65	0.65	0.65	0.35	0.35	0.35

壁基準耐力が表に掲げた数値の中間の場合、その上下の壁基準耐力の低減係数から直線補完して算出する。

壁基準耐力が 7kN/m を超えるものは 7kN/m の値を用い、1.0kN/m 未満のものの低減係数は 1.0 とする。

表 14-3 多雪区域における壁端柱の柱頭、柱脚接合部の種類による耐力低減係数 Kjs(積雪深 2m の場合)

壁基準耐力	2.0	3.0	5.0	7.0
接合部 I	1.0	1.0	1.0	1.0
接合部Ⅱ	1.0	0.95	0.85	0.8
接合部Ⅲ	1.0	0.85	0.75	0.7
接合部Ⅳ	1.0	0.85	0.75	0.7

①2 階建ての2 階、3 階建ての3 階

②2 階建ての1 階、3 階建ての1 階及び3 階建ての2 階

壁基準耐力	2.0			3.0			5.0			7.0		
	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ
接合部 I	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.95	0.95	1.0	0.95	0.9
接合部Ⅱ	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.95	0.95	1.0	0.95	0.9
接合部Ⅲ	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.95	0.95	0.95	0.9	0.9	0.9
接合部Ⅳ	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.95	0.95	0.95	0.9	0.9	0.9

③平屋建て

壁基準耐力	2.0			3.0			5.0			7.0		
	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ
接合部 I	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.85	1.0	0.85	0.75	1.0	0.85	0.75
接合部Ⅱ	1.0	1.0	1.0	0.95	0.9	0.85	0.85	0.8	0.75	0.8	0.75	0.7
接合部Ⅳ	1.0	1.0	1.0	0.85	0.85	0.85	0.8	0.8	0.75	0.5	0.5	0.5

壁基準耐力が表に掲げた数値の中間の場合、その上下の壁基準耐力の低減係数から直線補完して算出する。

壁基準耐力が 7kN/m を超えるものは 7kN/m の値を用い、1.0kN/m 未満のものの低減係数は 1.0 とする。

表 15-4 多雪区域における壁端柱の柱頭、柱脚接合部の種類による耐力低減係数 Kjs (積雪深 2.5m の場合)

壁基準耐力	2.0	3.0	5.0	7.0
接合部 I	1.0	1.0	1.0	1.0
接合部Ⅱ	1.0	0.95	0.9	0.85
接合部Ⅲ	1.0	0.9	0.8	0.75
接合部Ⅳ	1.0	0.9	0.8	0.75

①2 階建ての2 階、3 階建ての3 階

②2 階建ての1 階、3 階建ての1 階及び3 階建ての2 階

壁基準耐力	2.0			3.0			5.0			7.0		
	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ
接合部 I	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.95	0.95	1.0	0.95	0.9
接合部Ⅱ	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.95	0.95	1.0	0.95	0.9
接合部Ⅲ	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.95	0.95	0.95	0.9	0.9	0.9
接合部Ⅳ	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.95	0.95	0.95	0.9	0.9	0.9

③平屋建て

壁基準耐力	2.0			3.0			5.0			7.0			
	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	基礎 I	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ	
ĺ	接合部 I	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.95	0.95	1.0	0.9	0.8
ĺ	接合部Ⅱ	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.95	0.95	1.0	0.75	0.7
ľ	接合部Ⅳ	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.9	0.9	0.6	0.6	0.6

壁基準耐力が表に掲げた数値の中間の場合、その上下の壁基準耐力の低減係数から直線補完して算出する。

壁基準耐力が 7kN/m を超えるものは 7kN/m の値を用い、1.0kN/m 未満のものの低減係数は 1.0 とする。

表 16 基礎柱接合部仕様

区分	仕様
接合部 I	平成 12 年建設省告示 1460 号に適合する仕様
接合部Ⅱ	羽子板ボルト、山形プレートVP、かど金物CP-T、CP-L、込み栓
接合部Ⅲ	ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(構面の両端が通しの場合)
接合部Ⅳ	ほぞ差し、釘打ち、かすがい等

表 17 基礎仕様

区分	仕様
基礎I	健全な鉄筋コンクリートの布基礎又はべた基礎
	ひび割れのある鉄筋コンクリートの布基礎又はべた基礎
甘砵町	無筋コンクリートの布基礎
▲ 從 Ⅱ	柱脚に足固めを設け鉄筋コンクリート底盤に柱脚または足固め等を緊結した玉石基礎
	軽微なひび割れのある無筋コンクリート造の基礎
基礎Ⅲ	玉石、石積、ブロック基礎、ひび割れのある無筋コンクリート造の基礎など

表 18 その他の耐力要素の耐力 Qe

工法	耐力 Qe			
方法1(在来軸組構法、枠組壁工法の場合)	有開口壁の耐力 Qwo			
	本ソフトでは「有開口壁長による算定」を行います。			
方法2(伝統的構法の場合)	柱の耐力の合計ΣQc			
	1)垂れ壁付き独立柱1本あたりの耐力(dQc)			
	2)垂れ壁・腰壁付き独立柱1本あたりの耐力(wQc)			

方法1 (在来軸組構法、枠組壁工法の場合)の詳細

- ・開口の窓を窓型開口、掃き出しを掃き出し型開口と認識してその長さを算出します。
- ・開口が直線上で隣接する場合、合計した長さで計算します。

このとき、窓型と掃き出し型が隣接する場合、掃き出し型が連続するものとみなします。

- ・一連の連続した開口について、連続開口壁長の上限は 3m とします。
- ・有開口壁が有効なのは、少なくとも片側には耐力を有する無開口壁が存在するときのみとします。
- ・開口部に隣接する壁が斜め壁の場合、開口部と同じ方向で耐力評価ができる場合、隣接する開口部を 評価することができるものとします。
- ・開口部と開口部の間にある無開口壁が耐力評価出来ない場合、当該壁を開口部とみなし、一体の開口部と してみなします。

方法2(伝統的構法の場合)の詳細

- ・耐力壁と開口が重ねて入力されている部分を垂れ壁、または垂れ壁・腰壁として計算します。
 その開口が掃き出しの場合は垂れ壁、開口が窓の場合は垂れ壁・腰壁とします。
 重ねて入力されている耐力壁の壁基準耐力をその開口の基準耐力とみなして計算します。
- ・柱に無開口壁が接続する場合、その方向の耐力は評価しません。
- ・垂れ壁は、木造住宅の耐震診断と補強方法-表 3.5 垂れ壁付き独立柱1本あたりの耐力から耐力を引当て、
 垂れ壁・腰壁は、木造住宅の耐震診断と補強方法-表 3.6 垂れ壁・腰壁付き独立柱1本あたりの耐力の
 表から耐力を引き当てます。
- ・柱の小径は、入力されている柱の柱径です。自動生成された柱の初期値は建物概要の柱径となります。
- ・柱両端の垂れ壁または垂れ壁・腰壁の長さを合計し、1.2m以上か、1.2m未満かで引当てる表を変更します。 柱の片側に垂れ壁が、反対側に垂れ壁・腰壁がある場合は両方が垂れ壁とみなして計算します。
- ・中柱で左右に隣接する垂れ壁の仕様(基準耐力)が異なる場合、両者を合計した長さで両方の仕様
 (基準耐力)で計算し、安全側となる値(小さい方)を採用します。
- ・それぞれの垂れ壁の長さは、垂れ壁端部の柱のサイズを問わず、隣の柱または壁までの距離の半分とします。

表 19 垂れ壁付き独立柱一本あたりの耐力(単位:kN)

①Le=1.2m 未満の場合

社の小沼	垂れ壁の基準耐力(kN/m)									
社の小住	1以上2未満	2 以上 3 未満	3以上4未満	4以上5未満	5以上6未満	6以上7未満				
120mm 未満	0	0	0	0	0	0				
120mm 以上 135mm 未満	0.20	0.36	0.49	0.60	0.70	0.48				
135mm 以上 150mm 未満	0.22	0.39	0.54	0.68	0.80	0.92				
150mm 以上 180mm 未満	0.23	0.42	0.59	0.75	0.89	1.02				
180mm 以上 240mm 未満	0.24	0.45	0.65	0.84	1.02	1.19				
240mm 以上	0.24	0.48	0.71	0.93	1.15	1.36				

②Le=1.2m 以上の場合

社の小汉		垂れ壁の基準耐力(kN/m)									
社の小住	1以上2未満	2以上3未満	3以上4未満	4以上5未満	5以上6未満	6以上7未満					
120mm 未満	0	0	0	0	0	0					
120mm 以上 135mm 未満	0.36	0.48	0.45	0.44	0.43	0.43					
135mm 以上 150mm 未満	0.39	0.68	0.71	0.66	0.64	0.64					
150mm 以上 180mm 未満	0.42	0.75	1.02	1.02	0.94	0.94					
180mm 以上 240mm 未満	0.45	0.84	1.19	1.50	1.79	2.06					
240mm 以上	0.48	0.93	1.36	1.77	2.17	2.54					

注:表中、網掛け部分では柱の折損の可能性があることを示す。120(mm)未満の柱は、折損の可能性が高いため 耐力を算定しない。

表 20 垂れ壁・腰壁付き独立柱一本あたりの耐力(単位:kN)

①Le=1.2m 未満の場合

社の小保	垂れ壁・腰壁の基準耐力(kN/m)									
社の小住	1以上2未満	2 以上 3 未満	3以上4未満	4以上5未満	5以上6未満	6 以上 7 未満				
120mm 未満	0	0	0	0	0	0				
120mm 以上 135mm 未満	0.51	0.90	1.26	1.59	1.53	0.66				
135mm 以上 150mm 未満	0.54	0.98	1.37	1.73	2.08	2.42				
150mm 以上 180mm 未満	0.56	1.05	1.48	1.87	2.25	2.61				
180mm 以上 240mm 未満	0.59	1.13	1.64	2.11	2.56	2.98				
240mm 以上	0.61	1.20	1.77	2.33	2.87	3.40				

②Le=1.2m 以上の場合

社の小匁		垂れ壁·腰壁の基準耐力(kN/m)									
社の小全	1以上2未満	2以上3未満	3以上4未満	4以上5未満	5以上6未満	6以上7未満					
120mm 未満	0	0	0	0	0	0					
120mm 以上 135mm 未満	0.90	1.59	0.66	0.53	0.50	0.48					
135mm 以上 150mm 未満	0.98	1.73	2.42	1.08	0.85	0.76					
150mm 以上 180mm 未満	1.05	1.87	2.61	3.31	3.97	1.38					
180mm 以上 240mm 未満	1.13	2.11	2.98	3.77	4.52	5.25					
240mm 以上	1.20	2.33	3.40	4.43	5.43	6.39					

注:表中、網掛け部分では柱の折損の可能性があることを示す。120(mm)未満の柱は、折損の可能性が高いため 耐力を算定しない。

表 21 耐力要素の配置等による低減係数 eKfl(4 分割法における充足率)

両端 1/4 内の必要耐力に対する保有する耐力の充足率と床仕様によって、下式から耐力要素の配置等による低減係数を求める。低減係数は、X 方向、Y 方向それぞれについて算出する。ただし、eKfl≦1.0 とする。

床仕様	充足率比 0.5 以 上	充足率比 0.5 未満	
床仕様 I	1.0	eKfl=(eK1+eK2)/2eK2	
床仕様Ⅱ	床仕様I・皿の値の平均値		
床仕様Ⅲ	eKfl=(eK1+eK2)/2.5eK2		

eK1:充足率の低い領域の充足率 eK2:充足率の高い領域の充足率

※eK1≧1.0の時は、低減係数を1.0とする。

注:1階よりも2階の外壁面が外に出ている、いわゆるオーバーハング部分については、1階、2階とも4分割時 にオーバーハング部分を建物として考慮します。



	1/4
2階平面	1/4
	1/4
	1/4

【存在壁量の算出について】

存在壁量を算出する際の範囲は、以下の通りです。(4 分割線をまたぐ斜めの耐力要素がある場合、4 分割の領域に含



1階X軸方向のチェック オーバー ハング 部分 1/4 1/4 1/4 1/4



【必要壁量の算出について】



1階X軸方向のチェック





表 22 偏心率

偏心距離

ex = |xs - xg|

ey = |yx - yg|

弾力半径

Rex = ex $\angle \gamma$ ey



偏心率 Re

耐力要素の配置による低減係数(偏心率)

平均床倍	偏心率率	Re<0.15	0.15≦Re<0.3	0.3≦Re<0.45	0.45≦Re<0.6	0.6≦Re
1.0	0 以上			(3.3-Re)/{3(3.33Re+0.5)}	(3.3-Re)/6	0.45
0.5 以.	上 1.0 未満	1.0	1/(3.33Re+0.5)	(2.3-Re)/{2(3.33Re+0.5)}	(2.3-Re)/4	0.425
0.	5 未満			(3.6-2Re)/{3(3.33Re+0.5)}	(3.6-2Re)/6	0.4

表 23 床仕様

床仕様 診断項目		想定する床倍率
I	合板	1.0 以上
Π	火打ち+荒板	0.5 以上 1.0 未満
Ш	火打ちなし	0.5 未満

長辺の長さが4m以上の吹き抜けがある場合には、床仕様を1段階下げる。

表 24 劣化度による低減係数 dK

チェックシートを目視観察で埋め、「1-劣化点数/存在点数」の値が 0.7 以上となった場合はその数値を、0.7 未満と なった場合は 0.7 を劣化低減係数とする。建築年数(築 10 年未満か築 10 年以上)により調査項目が増減する。 老朽度の調査部位と診断項目(チェックシート)

		存在			
部位	材料、部材等	劣化事象	築10年	築10年	劣化点数
			未満	以上	
屋根	金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある	0	0	0
葺き材	瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある	2	2	2
樋	軒・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	2	2

			縦樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	2	2
			木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある			
外壁		外壁	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある			
	仕上げ		金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、 シール切れがある	4 4		4
			モルタル	こけ、0.3mm 以上の亀裂、剥落がある			
		副	諸出した躯体	水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある	2	2	2
			木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	\setminus		
	バ		窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある		1	1
	ルコ	手すり 壁	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、 シール切れがある			
			外壁との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、 シール切れ・剥離がある		1	1
			床排水	壁面を伝わって流れている、または排水の仕組みが無い		1	1
	+	一般室	内壁、窓下	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある	2	2	2
	内段	淡克	タイル壁	目地の亀裂、タイルの割れがある	0	0	
	王	冶主	タイル以外	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある	Z	Z	2
		中西	一般室	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	2	2	2
	床	床凹	廊下	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	\backslash	1	1
		床下		基礎のひび割れや床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	2	2	2

補強プラン作成時の「劣化度による低減係数」は、最大で 0.9 となる。ただし現状の低減係数が 0.9 を上回る場合には、その数 値が最大となる。

各階・各方向(X、Y)について「保有耐力 edQu/必要耐力 Qr」を算出し、その最小値を上部構造評点とする

表 25 総合評価

上部構造評点	判定
1.5 以上	倒壊しない
1.0 以上 1.5 未満	一応倒壊しない
0.7 以上 1.0 未満	倒壊する可能性がある
0.7 未満	倒壊する可能性が高い

ただし、多雪区域においては、無積雪時の評点と積雪時の評点の両者を求め、低いほうの評点を当該建物の耐震診断 評点とする。建物概要の積雪欄には建物概要で入力した「積雪」の情報が印刷されます。



8 もっと便利に使うために

補強プランの自動生成や、ビジュアルでわかりやすい提案書作成方法等を習得します。

基礎の入力

基礎

必要に応じて基礎の削除や追加入力を行います。

≪操作方法≫

- ① 階数タブ切り替えで「基礎」タブを選択します。
- ② 基礎アイコン 基礎 をクリックします。
- ③ 削除モードに切り替えます。

(削除アイコン 削除 をクリック)

- ④ 削除したい基礎をクリックします。※入力は入力モードで行います。
- メモ 部屋領域の形状にて基礎が自動的に生成されます。
 基礎伏図と耐力壁との情報の連携はありません。

27-(46) 発展(4) モード(*) 単月(4) (5(巻)) 投ぎ 音型(*) マスターメンテナンス(3) へんプ(*)	
유 문 왕 성 세 있 것 것 집 같 수 수 수 있 때만 않고 🔚 한 문 수 🦷	
	AND DECISION OF THE OWNER
1 00 @ 788 @ 768 -	Hazı.
	* 888-888755+
	\$\$109817 ^{ab} out
a sector a s	land, -
ARE HEVOUTRHAR	0040837 0045967

基礎開口

必要に応じて基礎開口の入力を行います。

≪操作方法≫



入力したい場所でクリック。



67

壁補強

≪操作方法≫

① 現状/補強案タブ切り替えで「補強案1」タブを選択し、プランコピーアイコン コピー をクリックして現状を補強プ ランに取り込みます。



★モ 平面図、建物概要、劣化度が現状と独立したデータでコピーされます。補強案は1物件当り3案作成できます。4案以上作成する場合は別名保存にて物件をコピーして作成して下さい。

② 必要に応じて耐力壁・接合部分の補強(変更)を行います。



【補強プランの自動生成を行う場合】(一般財団法人 日本建築防災協会の木造住宅耐震診断プログラム評価対象外) 「補強」アイコンをクリック後、属性ダイアログで補強する内容をチェックします(壁補強を行う場合には補強後の耐力 要素も選択します)。その後、上部構造評点の右欄に目標とする評点を半角数字で入力し、[実行]をクリックします。





メモ 補強プラン生成は、以下の内容に従って処理されます。

●補強オプション

補強オプションは壁補強よりも優先的に倍率を上げます。

- A. 基礎改善:建物概要の基礎仕様と耐力壁毎に設定された基礎Ⅱ、ⅢをⅠに変更します。
- B. 劣化度改善:劣化度係数チェックシートの劣化点数を0.9に変更します。

補強プラン作成時の「劣化度による低減係数」は最大で0.9です(現状の低減係数が0.9を上回る場合はその数値)。

- C. 屋根の軽量化:建物概要の「建物の重さ」を「重い」「非常に重い」から「軽い」に変更します。
- D. 下屋優先:開口部の耐力壁化より、下屋部分の補強を優先します。

●壁補強

低減前の壁量を設定された目標値にします。

①建物外周の出隅の両側が開口のとき、偏心率の悪い方に耐力壁を1 P 分追加。

②外部(軸組無しの壁 剛心から遠い順 → 軸組有りの壁 剛心から遠い順)

③内部(軸組無しの壁 剛心から遠い順 → 軸組有りの壁 剛心から遠い順)

④ここまで補強してNGのときは耐力を10kNに上げて上記の順で上げる

⑤ ①~④の手順で下屋下の壁を上げる(下屋優先のとき)

⑥雨戸を補強

外部開口部 ⑦部屋に一つ開口を残す。2Pを超える窓を2Pとして残りを耐力壁として新設する。 これで目標値に達成できないときは、その旨と現在の上部構造評点を表示する。

●表記

- ・現状から変更された耐力壁:耐力壁の属性ダイアログの[補強]ボタンにチェックを入れると〇印が 表現されます。
- ・補強不可壁:耐力壁内に白抜き矩形+×印が表現されます。
- ・追加された柱、現状から変更された柱:大きなサイズの柱で表現されます。柱の属性ダイアログの[補強 する]ボタンにチェックを入れると表現されます。

「補強」ボタンを押した際には、画面上に以下のメッセージが表示されます。
 【補強プラン自動生成は、日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の評価対象外です。】
 ●補強プラン自動生成を行った後に図面の変更を行っていないものについては、補強計画書の表紙に以下のメッセージが表示されます。
 【本補強プランは「木耐博士 N」の「耐震補強プラン自動生成」によって作成されたものであり、日本建築防災協会の「木造住宅耐震診断プログラム評価」の評価対象外となります。】

耐力壁のカラー表示

耐力壁を壁強さ倍率別に分類されたカラーで表示/印刷することができます。

≪操作方法≫

- ① メニューバーの「設定」-「耐力壁表示」-「カラー」に設定します。(耐力壁表示 アイコンをクリック)
- ② 印刷時の出力設定で「カラー」に設定します。



提案書の仕上げ

画像

出力図に調査時の写真や補強部材や事例等の画像を配置したいときに利用します。

≪操作方法≫

配置する画像を任意の場所(フォルダ等)に用意します。

出力

① 出力図面アイコン 画面 をクリック。

1251

- ② 画像アイコン 画像 をクリック。
- ③ [参照]ボタンをクリックして画像がある場所まで移動し、ファイルの種類(BMPか JPG)を選択し ファイルを選択し[開く]ボタンをクリックすると、属性ダイアログに画像が読み込まれます。



④ 縦横比固定の状態で、対角入力で画像を配置します。



メモ 配置された画像全てを含むように印刷されますので、図面サイズも考慮してレイアウトを行うよう にして下さい。画像の入れ替えは出来ませんので一旦削除して再入力をお願いします。画像の移動 については次のページを参考にして下さい。

文字

出力図に文字を書き込みたい場合利用します。

≪操作方法≫

- ① 出力図面アイコン をクリックします。
- ② 文字アイコン 文字 をクリックします。
- ③ パレット内に文字を直接入力します。
- ④ 以下の内容で配置します。
 - ●1点入力:配置したい部分で1点入力します。

●囲み線入力:囲み線付き文字を1点入力します。

- ●引き出し線入力:引き出し線にチェックを入れて始点、終点(文字配置)を入力します。
- ★ 木耐博士N [練習 様邸-補強案1-耐震結果1階] - 0 <u>×</u> --ファイル(F) 編集(E) モード(M) 部材(B) 汎用(H) 設定 表示(V) マスターメンテナンス(J) ヘルプ(H) ♀ 耐震結果基礎 (金) 耐震結果1F (金) 耐震結果2F □ 現状 目 補強案1 目 補強案2 目 補強案3 施工の流れ 1)土壁を全て除去し社 取り付ける為に基礎に示 2)社にホールタワン金物 3)コーナー金具や特を供 4)枝に耐酸ポードを取り 5)耐酸ポードにペニヤ板 登録 前隊 施工の流れ 加上の流れ
 1) 土壁を全て除去し柱と基礎をつなぐホールダウン金物を 取り付ける為に基礎に穴を開けアンカーに挿入します。
 2) 柱にホールダウン金物を取り付けます。
 3) コーナー金具や桟を使って壁面内部を補修します。
 4) 桟に耐震ボードを取り付けます。
 5) 耐震ボードにベニヤ板を取り付け完了です。 改修費用の目安 工事合計金額 かべつよし いのちまもる かべつよし □引き出し線
 ☑ 囲み線 8190 角度 0 10.00) 14 (0.26) 0.25) 0.25 便所 (C公掃出 階段 C 田間 玄関 廊下 1階 偏心率X 偏心率Y 必要耐力X(kN) 必要耐力X(kN) 保有耐力X(kN) 保有耐力Y(kN) 保有 湯出 掃出 \$ 0.04 24.51 1550 35.10 25.25 뗾 80 評点X 1.43 1.02 評点Y 1点を入力して下さい 0051870 0049595
 - 1. 文字の登録と利用

パレット内に挿入されている文字に対して登録することができます。登録された文字はテンプレートにコピー されます。テンプレートの文字をダブルクリックするとパレットに文字がセットされ、通常の文字入力と同じよ うに配置ができます

2. 文字サイズ変更

文字アイコン右側のプルダウンにて「フォント設定」で文字サイズを変更することができます。 設定以降の文字入力に反映されます。入力済の文字は変更モードにて変更することができます。

3. 文字·画像移動

文字アイコンの右側のプルダウンにて「文字・画像移動」で文字と画像を移動することができます。 移動したい要素をドラッグ&ドロップして移動して下さい。